

第 3 回 館山市議会定例会会議録

(第 2 号)

1 平成5年9月16日(木曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 23名

1 番 秋山 光章	2 番 増田 基彦
3 番 島田 保	4 番 斉藤 実
5 番 宮沢 治海	6 番 植木 馨
7 番 鈴木 順子	8 番 永井 龍平
9 番 脇田 安保	11 番 山崎 雅己
12 番 岩村 勝弘	13 番 榎本 春光
14 番 小宮 利夫	15 番 山中金治郎
16 番 鈴木 勝美	17 番 鈴木 忠夫
18 番 日下 君敏	19 番 川名 正二
21 番 神田 守隆	22 番 福原 勳
26 番 辻田 実	27 番 横溝 功
28 番 飯田 義男	

1 欠席議員 3名

10 番 庄司二三男	20 番 生稲 陸
23 番 石井 昌治	

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総務部長 斉藤 賢司	民生部長 渡辺 富雄
経済部長 小沼 晃	建設部長 三平 孝司
水道課長 谷貝 実	教育委員会 高橋 博夫
	教 育 長

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 鈴木 哲
書記 四ノ宮 朗	書記 安田 仁一
書記 小山 真	書記 松浮 郁夏

1 議事日程（第2号）

平成5年9月16日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時01分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数22名、これより第3回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（福原 勤君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の9月8日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 通告をいたしました5項目につきまして御質問を申し上げます。

まず最初に、細川政権の誕生と政治改革に対する市長の対応について御質問をいたします。これまでの政治体質は間違っていたわけではないと思いますが、時代が変わり、新しい時代の政治を求める国民の要望が世界にも例を見ない連立政権の誕生をさせたわけでございます。したがって、私もこれまでの政治姿勢を変えて、新しい時代の流れに乗った新しい市政の実現に努力

する決意でございます。それは、市民本位の市政であり、市民生活の質を高め、豊かさの実感ができる質実社会の実現であると思うのでございます。この9月議会から、以上申し上げた立場から、これまでと異なり、本音の質問と議論をしたいと思いますので、よろしくお願いを申し上げます。

そこで、4点について質問をいたします。第1は、細川新内閣の生活者優先と地方分権の推進について、市長はどのように受けとめ、対応なされようとしておるのか、お伺いをいたします。

第2点目、首相は政治改革は年内に実現します、できないときは責任をとりますと記者発表をいたしました。これまでのあいまいな答弁と異なり、支持率が70%以上という考えられない数字になってこの結果はあらわれております。市長はこれまでの議会答弁で前向きに検討させていただきます、前向きに対処をしていきますとあいまいな答弁を繰り返してまいりましたが、細川さんのように期日と責任を明らかにした答弁はできないもののでしょうか、お伺いをいたします。

第3点は、全国的に問題になっているゼネコン汚職についてお伺いをいたします。自治省の事務次官通達が8月5日付で県より館山市に送付されております。その3項にある公共工事の入札、契約手続の適正化についてはどのように対応するおつもりなのか、お伺いをいたします。

第4点は、NHKの「首相と語る」という番組の中で細川首相は、法案については、これまでと異なり、譲れるものは譲り、野党、すなわち自民党の意見を尊重することはやぶさかでないと言われました。市長のこれまでと政治体制が異なったわけでございます。議会では本音で議論をし、議員の意見を尊重するようにできないものなのでしょうか、お伺いをいたします。

次に、第2項目目の質問に移ります。総合病院の建設と安房医師会の関係について4点を質問します。第1点、市長は市で総合病院を建てることは困難であるとして、安房医師会病院に市民の医療に対する要望に応えられる機能を拡大、充実したものをお願いいたしておりますと答弁を繰り返しております。その結果、半澤市長は隣接の正木地区に予算おおむね30億円で、庄司市長の時代になってからは、平成3年9月議会で隣接の湊地区におおむね土

地の買収のめどがついたのだという希望的な答弁がなされてきたわけでございます。そこで、この両地区の計画はその後どうなっておるのか明らかにしていただきたいと思います。

2点目、先月の新聞に安房医師会から保健医療協議会に対しておおむね50億円の改修計画案が発表されたそうでございますが、その内容を具体的に説明をいただきたいと思います。

3点目、これまでの経過と他市の例から見て、医師会病院の改築に対する市の補助金をどれくらい必要とするのか、この点についての御所見をお伺いいたします。

4点目、私は長い市議会議員の経験と市の現状から見て、市民の要望を満たすことのできる病院の建設は市町村立または第三セクターによる以外ないと見ております。しかし、市長はどのようにお考えになっておられるのか、改めてお伺いをいたします。

続いて、第3項目の質問に移ります。橋上駅の建設と東口再開発計画について4点を御質問申し上げます。第1点、JR千葉支局に対しまして陳情をなされたようでございますが、その内容と結果について御説明をいただきたいと思います。

第2点、橋上駅の問題は東口の再開発計画の論議の中から生まれてきたものと思います。しかし、その橋上駅が地元の研究会、さらには準備会が解散状態になっている中で果たして大丈夫なのかどうなのか、この点についてお伺いをいたします。

第3点、市長は橋上駅の性格、内容、すなわち駅ビルにするかどうかということについてどのようにお考えになっておられるのか、御説明をお願いいたします。

第4点、館山駅の改築計画のこれまでの経過と、他市の橋上駅の改築の例から見て、地元負担をどのくらいに見ておられるのか、そしてその見通しが立てられておられるのかどうなのか、この点についてお伺いをいたします。

続いて、第4項目目の質問に移ります。風水害対策と鉄道、道路の整備について3点を質問いたします。第1点、去る7月25日から26日にかけての豪

雨はひどいものがございました。この豪雨による市内の被害状況はどの程度であったのか、御説明をお願いいたします。

第2点、現在市は降雨量と防災体制をどのような基準で実施しておられるのか、この点についてお伺いいたします。そして、7月25日から26日にかけての豪雨のときにはどのような体制をとられたのか、あわせて説明をお願いします。

第3点、少し強い雨が降ると鉄道がとまり、国道が不通になって、館山市は陸の孤島になることが非常に多いわけでございます。この点についてどのような具体的な対応をとられてきたのか、この点についてお伺いをいたします。

第5点の質問に移ります。青年館の払い下げと町内会の法人化並びに税金の減免について3点を質問申し上げます。第1点、これまでに青年館の払い下げを受けたその名義人とその登記についてはどのようにしてこられたのか、この点について御説明をお願いします。

第2点、青年館の払い下げ条件に法人化をすることを推進できないものか、この点についてお伺いをいたします。

第3点、町内会を法人化すると、収益がなくても法人市民税が賦課されます。この額は非常に大きなものがございまして、町内会としては負担が困難かと思われるわけでございますけれども、収益のない年度には減免ができないものか、この点についてお伺いを申し上げます。

以上、質問を終わります。御答弁によって再質問をさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の細川政権誕生にまつわる問題でございますが、その小さな第1点目、自民党政権から連立政権への歴史的転換をどのように受けとめているかとの御質問でございますが、7月の総選挙結果は、国民が国政は政治の本道を歩みなさいと明らかに示したものと思います。21世紀を目前にしまし

ての政治の方向は、国民の信頼の上に立った国民のためのクリーンな政治であります。細川内閣のよりどころは、民主主義の根本でございます選挙によって示されました国民の信頼を基盤として、その信頼が今継続していることにあると思います。先週発表されました各報道機関の世論調査によりますと、内閣支持率は70%前後の高率でございます。国民の政治改革への期待があらわれていると思います。国政は国民に目を向けた政治を行い、国民生活の向上を目指すものであり、これがまさに国の政治の目的であります。私の市長としての政治の原点は、市民とともにあること、市民の中に入り、市民の声が十分に反映された政策を展開していくこと、ここにあります。私はこの原点を私の基本姿勢の中に常に踏まえていることが大切であると認識しております。

次に、小さな第2点目、全国的に広がっておりますゼネコン汚職とその対策についての御質問でございますが、今回自治事務次官より平成5年7月30日付、公務員秩序の確立についての通知を受けたところでございます。館山市の公共工事入札につきましては、従前より公正、適正に対処しております。今後さらに一層適正に対応してまいりたいと考えております。

次に、小さな第3点目の御質問でございますが、8月の特別国会における細川首相の所信表明、これを聞きました。非常にわかりやすく、語りかける言葉で、しかも簡にしてむだなく、要を得ていると思いました。多くの国民が親しみを感じたと報道されております。私は常に先ほど申し上げました市民のための政治、市民と一体となった市政を推進すべく心がけております。今後も市民生活の向上を目指しまして、今まで同様市民から選ばれた市議会との意思疎通を図り、市民の意見を大切にしたい市政を展開していく所存でございます。

次に、大きな第2の病院建設にまつわる問題についての第1点目、医師会病院の正木地区、湊地区の建設計画が変更になった理由についての御質問でございますが、計画地が農用地であったこと、用地交渉が不調となったことなどと聞いております。

小さな第2点目、地域保健医療協議会で発表されました医師会病院の建設

計画の内容と実現の見通しについての御質問でございますが、安房医師会が安房地域保健医療計画に基づきまして安房医師会病院の整備充実を図り、また救急基幹センターとして機能するためのたたき台としての設計概要を示したものでございます。今後も安房地域保健医療協議会及び安房郡市地域医療協議会、これを中心に検討を進め、具体化に向けて県当局への要望活動等、協力、支援に努めてまいりたいと考えております。

次に、小さな第3点目、医師会病院の建設に関する館山市からの資金援助はとの御質問でございますが、救急基幹センターの必要性は安房地域保健医療計画の中で位置づけられておりますので、まず県に対しまして支援、協力を働きかけてまいりたいと考えております。

次に、小さな第4点目、市町村立または第三セクターによる総合病院についての御質問でございますが、市町村立及び第三セクターによる総合病院は考えておりません。

次に、大きな第3、館山駅の橋上駅舎にまつわる御質問、その小さな第1点目、JRへの陳情の結果と対応についての御質問でございますが、去る8月9日、館山駅橋上駅舎建設促進協議会正副会長でJR千葉支社を訪問し、館山駅橋上駅舎建設の要望書を提出いたしましたところ、JR千葉支社の好意的な姿勢がうかがえました。今後関係機関と協議を進め、館山駅西口地区の整備に合わせた駅舎の建設に向けて、その実現を図るべく努力してまいりたいと考えております。

次に、第2点目の館山駅東口地域の都市計画と事業の実施についての御質問でございますが、橋上駅舎建設が契機となりまして、現在中断しております東口地区市街地再開発事業が地元権利者の方々の合意形成により進展することを期待しております。

次に、第3点目の橋上駅の多目的総合ビルについての御質問でございますが、いわゆる駅ビルにつきましましては、駅勢圏人口から見ても困難であろうと考えております。その可能性につきましても調査検討してまいりたいと考えております。

次に、第4点目の館山駅改築計画の経過と他の市町村の例から見た地元負

担についての御質問でございますが、経過につきましては、昭和48年に館山駅建設期成促進協議会が設立され、その後東西両地区の一体化に向けての計画が進められてまいりましたが、その詳細につきましては、さきの6月議会におきまして辻田議員に御答弁申し上げたとおりでございます。また、地元負担につきましては、自治省協議の中で、なるべく公費負担ができるよう努力をしてまいりたいと考えております。

次に、大きな第4の風水害対策の問題についての小さな第1点目、7月25日、26日の豪雨によります家屋と道路の浸水についての御質問でございますが、この被害を受けられました関係者の方にまずお見舞い申し上げます。市内におきましては、道路冠水等が何カ所か発生いたしました。幸いにしましてその他に大きな被害はございませんでした。平成3年9月議会でお答えいたしましたその後の改修整備状況につきましてでございますが、道路関係9カ所のうち5カ所につきましては整備が完了しており、また河川3カ所につきましては、2級河川の関係もございますので、管理者でございます県に要望をしているところでございます。なお、排水路5路線につきましては、現在4路線について年次計画に基づき整備中でございます。急傾斜地関係につきましては、館野保育園裏山の除去工事も完了し、ことしより那古山急傾斜地崩壊防止工事も着手する予定でございます。

次に、小さな第2点目、降水量と防災対策の確立についての御質問でございますが、館山市地域防災計画で気象情報等の内容に適應した体制が確立できるよう定めております。また、防災関係機関におきましても、情報の収集や警戒が円滑に実施できる体制が確立されております。

次に、小さな第3点目、風雨から鉄道、道路の運行を安全に守る対策についての御質問でございますが、J R及び国道工事事務所では、安全確保のため、一定雨量に達した場合、運行の休止、交通どめ等の措置を講じております。しかしながら、幹線交通網でありますため、両機関では逐次防災対策事業を実施中であると同っております。今後とも関係市町村ともども国、県、J Rに整備促進を働きかけてまいります。

次に、大きな第5の青年館に関します問題、その小さな第1点目、青年館

の払い下げを受けました名義人とその登記についての御質問でございますが、設置後20年を経過しました青年館につきまして順次無償譲渡を行っております。なお、無償譲渡をいたしました27館の登記人の数につきましては、代表者1名による登記は4館、2名が10館、3名が10館、4名が2館、29名が1館でございます。

次に、小さな第2点目、法人化を指導できないかとの御質問でございますが、無償譲渡会議の中で登記名義人につきましては個人名または法人名による2通りの方法がある旨を説明し、それぞれの地域の実情に応じて選択をしていただいております。

次に、小さな第3点目、町内会を法人化したときの法人市民税の減免についての御質問でございますが、認可地縁団体における課税関係につきましては、収益事業を行わない場合であっても、原則的に均等割4万円を納付する義務がございます。しかしながら、これらの団体は一般の法人とは異なり、単に所有する不動産の権利を保有するために認可を受けた団体でございます。その不動産が専ら地域の共同活動のために用いられることが明らかでございまして、かつ収益事業を行っていない場合には、館山市市税条例の規定により減免してまいりたいと存じます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 順次再質問をさせていただきます。

第1点目、私は市議会は館山市の最高意思決定機関であると思っております。市長はこの点どのように考えておられるのかお伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 今お答えしましたとおり、私の市政の基本方針が市民のための政治を願い、市民とともにあるという基本姿勢でございますので、市民から選ばれました市議会の意見、これを大事にし、議会との意思の疎通を図り、市政を運営していく、こういう基本姿勢でございます。今までと同様でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番(辻田 実君) 次に、これまでの附属機関並びに他団体の意見を市長はいろいろと聞いておられるわけでございますけれども、これらの意見を優先をして、市議会をパスして執行に移っている傾向が多々見られるわけでございます。これらの点について市議会に報告してから執行に当たるということはできないものかどうなのか、この点についてお伺いをいたします。

◎議長(福原 勤君) 庄司市長。

◎市長(庄司 厚君) 先ほど来申し上げましたとおり、市民の声を聞くというのは現代の民主主義の基本でございます。遠慮なく聞かせていただきます。ただ、その施策の遂行に当たりましては、予算を伴いますものでございますから、市議会に事前に諮り、その協力を得るのは当然のことでございます。今まで同様その道を歩んでまいります。御安心いただきたいと思います。

◎議長(福原 勤君) 辻田 実君。

◎26番(辻田 実君) そういうことであれば結構でございますけれども、議会の皆さんは非常に熱心でございますけれども、私の立場から見ると、かなり市民の声を聞くということは大いに結構なことでございます。しかし、それを市政の執行ということになったら、やはり議会制民主主義を建前としている日本国憲法のもとにおいては、やはり議会を通してから執行するということが大切であろうと思うわけございまして、そういう点が最近是非常に希薄になっているんじゃないか。そういう点から議員定数の削減とか、議員は余り用がないからそんなに多く必要じゃないんじゃないかというような声が具体的に提起されてきているわけでございますけれども、その辺に問題があるんじゃないかと思います。選挙によって市民の声を反映されるべく議員が選出され、そしてその議員がそれぞれの市民の声を市政に反映させる。そして、市議会は三権分立の一つの最高権限であるわけでございますから、議会の意思を経ずして市の意思決定というものはありませんと思うわけでございますけれども、この点についてはどうなのか、もう一度お聞かせしていただきたいと思います。

◎議長(福原 勤君) 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 市民の声を大切にするというのは、これは一致しておりますが、あくまでも、今のお話のとおり、市民から選ばれた議会の意思を尊重してまいります。まして、今出たような定数問題などは議会そのものの主体的な問題でございまして、私の方から意見を出す問題ではない。あくまでも議会を大事にしていくという基本姿勢でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 意気込みは非常に感謝をいたしまして、そういうことで、これからひとつ本音の市議会を運営してまいりたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

次に、新内閣は大幅な規制緩和をいたそうとしております。この結果、地方自治体は、これまでの国の直轄的な政策、県の直轄的な方針、こういうものが自治体に移るわけでございますから、地方自治体の独自性と行政能力は非常に高まると思うわけでございますけれども、このための行政改革をどのように、館山市の行政改革はどのようにお考えになるのか、ひとつお考えがありましたら御答弁をお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 細川内閣の所信表明演説は、先ほども申し上げましたとおり、国民の信頼に応えるという一般的な御意見でございまして、明日から始まります臨時国会におきましていかに具現化の施策が出てくるかというところがこれからの細川内閣の仕事であろうと思います。私は国民の一人として、期待と大変だなという気持ちを持っているわけでございます。この地方分権につきましても、地方分権の規制緩和がどこまで行われるか、どういう内容かというのはこれからの問題でございますので、その様子を見たいと思っております。ただ、当館山市につきましては、市役所内部の大きな行政改革を今計画し、これから市民のためにどのような体制があったらいいか検討中でございます。きょうはそこまでお答えしておきます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） また1項目目の最後の再質問をいたしたいと思うわけでございますけれども、先ほどから言っております、市長としては一

番痛い質問かも知れませんが、ひとつ我慢をしていただきたいと思います。前向きに検討する、また対処するということはこれまでの政治の中の常識であり、そのことがいいというふうにされてきましたわけですが、その筆法がいけないという時代になったわけですが、ひとつ市長はこれからの答弁に対しましては何年何月の議会までには結論を出します、そして議会の判断を仰ぎます、こういう期間と責任をできるだけ明示していただきたい。

我々は別に市長の揚げ足を取ろうとは思っていませんし、お互いに意見を出し合って、細川さんじゃないけれども、譲り合うのは譲り合う。今までの自民党は、国会で修正されるなんていうのは自民党政権について絶対できないということでもって、白でも黒と言い通すというようなことが、これが政権の基盤の強化だというようなことが言われておったわけですが、そういう点が——そこまでいっていないと思いますけれども、そういう点が批判されて、細川さんはそういう点を改めて、議会の中の意見を尊重して、そして自分が出した法案は皆さんの意見によって大きく修正し、譲っていくことについてはやぶさかではありません。これは非常に好感度が高かったわけですが、市長もそういう方向にひとつ転換できないのかどうか、ひとつそこら辺について——非常に言いづらい質問ですが、本音でひとつ御答弁をいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 細川総理の所信表明のよさというのは先ほど申し上げましたが、これから細川政権が緊急の経済対策にしましても、外交問題にしましても、政治改革にしましても、具体的な問題に踏み込み、その方針を打ち出す場合には、あの与党内の意見の統一でも大変だと思います。あれは細川首相が一人でその具体的な内容について核心的なものを述べる段階以前に与党内の体制を固め、そして今度は与野党の意見を固めて議会にかけ、国民に打ち出してくるわけですが、かなりの慎重さを必要とするわけですが、

私の市政の方針は、先ほど来申し上げましたとおり、市民とともにある。

しかも、市民から選ばれた優秀な議員の皆さん、議会には全部かけて、そして方針をつくり上げていく、この路線を強く歩んでまいります。よろしくまた御審議のほど賜りたい。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 次の総合病院の問題について再質問をいたしたいと思います。

まず第1点は、先ほどの質問に補充するわけでございますけれども、これまでの私が経験いたしました2回の改築計画案について、先ほど市長は農地の問題、土地の買収に行き詰まった、こういうこと等が原因だということを言われておりましたが、私はむしろそれよりも医師会としての資金計画の見通しが立たなくなったという点だということを伺っております。この点についてはどのように思っているのかお伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 医師会の内部問題につきましては、これは医師会の問題でございまして、立ち入るわけにはまいりませんが、医師会長と、また医師会の組織構成員とたびたび医師会病院の充実、そしてこの館山市を含む内房地域の住民の将来の健康と、高齢化社会を踏まえましての健康増進のためにどうあったらいいかということについては話し合いを繰り返しておりますが、資金の問題については定かではございません。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 次に、協力、援助の問題でございますけれども、先ほど医師会のこの改築計画については、市としては協力、支援していきたい。具体的にどういう形でもって協力、支援するのか。

そして2番目には、県に対して要望してまいりたい、ということでございますけれども、県の財政事情、今までの県とのかかわり、こういう点から見てかなり難しいというんですか、やることについてはいいんですけれども、地元負担金、また医師会の財政力というところが大きなネックになっておるやに思われます。この点については改善の兆しがあるのかどうなのか、この点についてお伺いします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） この問題が一番大事な問題で、これから具体化に伴っての大事な問題でございまして、国の方針が出ておりまして、さらに県の方針が出て、そして医療圏が設定され、医療圏の中に第3次医療にたえる総合病院が1つ、さらに先ほど申し上げました医師会病院の充実、救急基幹センター機能を持つ病院が必要だ、これが安房医師会病院、その機能を持っていただく、こういうわけで、医師会もその方向でございまして、つきましては、医師会さんもある程度の資金的なものはお考えでございましょう。さらに、私としての具体化に伴っての支援、協力、これは皆さん方に諮りながらやってまいりますが、どうしても県の協力が必要でございまして、しかも県でそういうものが必要だ、医療圏の中に必要である、安房地域に関しては、湊川にあります医師会病院をそのセンターに持っていくことが最も望ましいと県の計画の中にはもう出ていますんで、県の方への協力、その3者の整合性がこれからの方向であると考えております。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 今申されましたものは市長としての願望であろうと思いますけれども、政治は生臭い現実があるわけでございます。それは我々の主張、要望に即応するものでない方が多いわけでございます。むしろ逆に経営をよくしようと思えば、苦しい状況がますます重なる。これが人生であり、また市政であるというふうに思うわけでございまして、今県並びに館山市、医師会病院が置かれている状況というのは大変だと思います。今日本じゅうの病院で健全経営しているところは半分ないと言われております。毎日のように大型倒産が連続でございまして、国も手の打ちようがないという状況になっていることは既に御案内のとおりでございまして。

こういう中において、医師会病院を医師会という団体に任せて、そしてこれに期待するというのはかなり無理があるんじゃないか。市長はこれらの問題については医師会病院をお願いして、市民の要望に応えられるところの医療機関の充実を図っていきます、これは半澤さんは一貫しているわけですが、これも、これはわかるんですけれども、医師会病院にそれだけの能力と力と

資産が現在ありますか。そのことが同時に2回の計画が行き詰まった原因になっているんじゃないでしょうか。こちら辺はもうちょっと本音で話を
して、その点をカバーしない限りにおいては、医師会に医師会機能を充実し、
機能を高めることをお願いし、協力を頼むことは、私は非常に実現性のない
形式論になるというふうに思うわけでございますけれども、その点について
は市長は、先ほど私が言っているように、医師会にやってもらう見通しと、
その自信というんですか、あるのかどうなのか。

市長も就任3年、残された期間は1年でございます。何とか私はこの総合
病院の問題についてめどをつけなければ、これは市長に対しても申しわけな
いと思っている。全面的に協力したいと思っているわけでございまして、そ
ういう点ではもっと医師会との本音の話し合い、そして財政に食い込んだも
のをしなきゃならないと思うわけでございますけれども、この点については
どのようにお考えになっておるのか、再度お伺いをいたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 先ほど申し上げましたとおり、今回初めて医師会
の方からこれからの医師会病院の充実についての計画案がたたき台として出さ
れたわけでございますから、これからそれを踏まえて具体化の方向に歩んで
いくわけです。今までその案をつくるだけで大変だったでございましょうが、
いよいよ具体化の方向に歩む。さらに加えて、県との関係が出ましたけれど
も、近い日にちに県の方からも来る。そして、その話し合いをしましょうと
いう段階まで進んでおります。そういう充実がこの館山市民及び内房地区の
住民の熱い期待でございますので、その充実に向かって歩んでまいりたいと
考えるわけでございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） この点について最後にもう一点伺っておきます。

市長は今度新しくその計画案が、たたき台ができたということでござい
ますけれども、前回もできておるんです。5階建ての立派なものでもって、医
療内部の機関その他もかなり私は見せてもらいました。案の案でございま
すから、当時半澤市長と私は2人でもってこれを何とかしようじゃないかとい

う話だったんだけど、医師会病院といっても市立じゃない。民間団体だ。市が補助するには限界があるので、なかなかその点は辻田君の言うようにはいかないんだ。何とか対処したいんだけど、資金の捻出方法についてはちょっと限界があるので、医師会側の要望とかなりかけ離れておるので、どうにもならないんだ。この点について了承してもらいたいということでもって、私もその後その点について勉強してまいりましたけれども、今の医師会の機構と、そして医師会の立場というものは、市から全面的に補助を出すというような状況にはなかなかないということは法的な面から見て私は思っているわけでございます。市長はその点はどうなのか。

そして、医師会の方の人たちともかなり私は話し合いをしてまいりましたが、やはり市の、県、国の相当の補助がないと改築並びにこれからの運営は困難だということでございますから、それには第三セクターしかないだろう。第三セクターになれば市も県も投資するわけでございますから、その責任は相当果たせるわけでございますけれども、半澤さんも第三セクターについては今の段階ではちょっと困難性があるから、その道がいいと思っている、こういうことでしたけれども、任期切れになってしまいました。市長は先ほど第三セクターをやる意思がないということでございますけれども、なければほかにやれる見通しと自信があるのかどうなのか、その点について、あらすじで結構でございますから、御答弁をいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 今の御意見の中の話は総合病院ということでございますけれども、総合病院をこれから新設するということは当安房地域医療圏において無理である。どうしても救急的な基幹センターをつくるという点に焦点は絞られております。それに対しては、現在の安房医師会の病院が県下、全国でも珍しい立派な経営をなさっておって、先ほど来辻田議員さんから出ています病院経営と違って、経営が黒字であるということが言われております。この充実については、医師会の方々もあそこに加えて救命センター的なものをつくる必要があると認識されておりました、私たちも同じ認識を持ちます。県自体は、先ほど言いましたように、県の策定した計画の中にそれが

盛り込まれているわけでございます。その必要性を認めておりますから、そういうものが、3者が合体となってこの仕事を進めていく。しかし、中心はあくまでも安房医師会である。それに対する我々は協力、支援である。第三セクターというよりも、安房医師会病院であるというような行き方で今後も支援、協力をしたい。具体化はこれからでございます。

◎議長（福原 勲君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） その点については、市長と私の現状認識と、それから対応の方法についてはかなり隔たりがありますので、これ以上論議をしても平行線をたどると思います。

私はとにかく実現すればいいわけでございますから、私は私なりに、また市議会議員、その他民間の多くの同志も、辻田君、おまえは市長を責めるだけじゃなくて、おまえの構想でもってやったらどうかというようなことも言われているわけでございますので、私もこれから一生懸命に勉強して、具体的にこうしてやればできる。私は医師会病院の力じゃできない、第三セクターをつくらなきゃならないというふうに考えておりますので、そういった方向でもって、ひとつ次か次の議会ぐらいには対話を持って、ひとつ市長とお互いにその意見を突き合わせて、ひとついい方向で市長は取り入れて実現に向かっていただきたい。私はどんな方法でもいいんですけれども、それがやはりあと残された任期中に目安がつかないようじゃ困ると思うわけでございますので、次の議会までにお互いに勉強し合って、お互いに意見を出し合って実現に向かってまいりたいということを申し上げまして、2項目は終わりたいと思います。

時間ありませんので、3項目に移ります。橋上駅の問題についてはわかりました。だけれども、東口ができていない中では困難だと思います。私はその点についてももう少し本音で話してもらいたい。

私は少なくとも東口再開発計画については10年近く議会を通して、そしてまたそれらの計画推進準備会なり研究会のメンバーと研究してまいりました。そこでをもって一番中心になっておったのは、どんな駅をつくるのか、どこに出口をつくるのか、これが決まんなきゃ東口の再開発はできない。再開発をや

っても、とんでもない駅ができちゃったら困っちゃう。これが最後までネックになっておったということ。2番目に、再開発について駅ビル形式をとるんだったら、それに協力することはやぶさかでないとなると、今の商店街の商店というのはかなり駅ビルに入ってくるから、かなり内容も違ってくる。ここところがきちんとしないうちについては再開発は決まらないんだということでもって、非常に熱心に論議してまいりました。そして、それらが決定したものでもって、国鉄に対して委託をしまして、そしていろいろと計画が出てまいりました。しかし、最終的に館山市の地元負担金が大きいために、半澤市長はとてもそういう負担金は出し切れないということでもってちゃんになってきているということは前回の議会でおっしゃったとおりでございます。

そこでもって、市長が言われておる点について、東口を進めて、東口はどうするんだというその意見に立った上でもって駅を決めていかないと、市民と直結したところの駅の改修というのは困難になるんじゃないかと思えますけれども、その点については私の方が経験者でございますので、どうなのか、ひとつ御意見を伺わせていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 現時点での駅舎の建設位置もまだ決まっておりますが、駅舎の建設位置によりましては、東口の開発——これは交通広場でございますが、一部は取り込んで整合性を持たせていく必要があるというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） この点については前の議会からも言っておりますけれども、2点だけ再度お伺いします。

第1点は、これまでの例からいって、やはり多額の地元負担というのが決め手になっているようでございます。館山だけでございせん。私の調べた範囲、また新聞等で見ても、みんなそれでもって行き詰まって、その見通しがついたところはできたと言って過言でない状況はもう御承知のとおりでございます。その点については、市長はその見通しを立てられたのかどうなの

か。

2 番目には、東口の再開発委員会をつくっていただくように、またつくる機運も出てきたということでございますから、早急につくっていただくように——これは市がやっぱり指導的にやっていかなきゃいけない。市政の問題ですから、都市計画をやるというのは。したがって、地元という要望もあるけれども、やっぱり市として駅前の整備をどうするかということについてやらなきゃいけないと思いますけれども、そこら辺について、市が中心になって東口の再開発計画について地元と話し合いをしていくという方向で確認してよろしいのかどうか、その点についてお伺いしておきます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 東口の開発につきましては、今後東口再開発の委員の方々に御連絡をいたしまして進めてまいりたいというふうに考えております。

もう一点の地元負担につきましては、先ほど市長より御答弁がありましたように、自治省との協議の中で公費負担を、できるだけ多く負担をしていくというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） ちょっとその程度じゃまなりませんけれども、次の議会でもた——もう少し時間がたった中でもってもう少し具体的にやっていきたい。これも市ばかりに責任を負わせるわけじゃなくて、我々としてもひとつこういうという代案をやっぱりつくり上げていかなきゃと思いますので、その節はひとつお互いに切磋琢磨したいと思いますので、お願いいたします。

時間がありませんから最後になりますけれども、防災について、市長は気象状況によって対応することができるということでございます。平成3年の9月議会の中でもって、雨量が時間当たり100ミリ、150ミリ、200ミリになった場合にはどのようにして対応するかということは担当課と今相談して検討中であるけれども、早急にそれらの結論を出したい、こういう答弁がな

されたわけですが、まだその点については具体的に — 100ミリの
場合にはどういう体制をとるのか、150ミリはどういう体制をとるかという
3年間のその具体的な経過、対応の方法、これらについてひとつどうなされ
たのか聞きたい。言いつ放し、やりつ放しじゃこれからの議会は困るわけ
でございますけれども、やると言ったことについては、やはりそれをきちんと
してもらいたい。できなきゃできないなりに、お互いに議会と執行部と協力
し合って、知恵を出して実現に向かうようにしたいと思うわけでございます
ので、その点について経過を明らかにしていただきたい。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 館山市の防災体制につきましては、館山市地域
防災計画に基づきましてその体制をとっているわけでございます。過去の例
でその体制はという御質問でございますけれども、この7月の25、26日、こ
の体制につきましては — 計画の中には注意配備、それからさらに降雨量が
ふえますと警戒配備、そういった体制順序で行っているわけです。この7月
の体制につきましては警戒配備、この体制で対応したわけでございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 警戒とか、いろんなそういうものについては何ミ
リとかなんていうことでもってこの間具体的にやるということでございます
けれども、その点についてはきちんとした規定ができたのかどうなのか、そ
れらの確定は、警戒とか云々という抽象的な言葉はどこで決定するのか、そ
の点についてお伺いして、時間がございませんので、これで終わりたいと思
います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 降雨量とその配備の体制の関係でございますけ
れども、まず最初にとります注意配備、これにつきましては、降雨量が1時
間20ミリ以上、あるいは3時間の累計が40ミリ以上、それから24時間の累計
が80ミリ以上というときに注意配備をとるわけでございます。それから、警
戒配備につきましては、1時間40ミリ以上、それから累計3時間で80ミリ、
24時間で150ミリという降雨量に基づきましてその体制をとっているわけで

ございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質問を終わります。

次、7番議員鈴木順子君。御登壇願います。

（7番議員鈴木順子君登壇）

◎7番（鈴木順子君） 私は通告をいたしました5点につきまして御質問を申し上げます。

まず第1点目でございますが、市内にある職場の雇用状況について伺います。私はかねてよりの御質問の折に幾つかの職場の状況をお話を申し上げましたことは御承知のとおりでございますが、市内の職場で働く人びとの近年の動向を見ますと、遠距離通勤や単身赴任者が非常に多くなってきているのではないかと思います。1990年の富士ディーゼルの解散で、多くの人たちが遠くへの通勤を現在もしております。県外への赴任も多かったと聞いております。市内で働く場が少なかったために、やむを得ずと考えた方もいらっしゃるとお聞きをしておりますが、館山市には平成12年の完成を目指しまして館山インダストリアルパーク計画がございますので、新たな雇用の場の確保ということでは今後も注目をしていきたいと思っております。

この6月に千葉県商工労働部職業安定課が第7次県雇用対策基本計画を策定いたしました。今後の雇用対策の基本方針を定めたものであることですが、これを見ますと、65歳までの継続雇用の推進や医療、福祉分野での労働力の確保、また中小企業等の労働力の確保、定着のための魅力ある職場づくりを進めるなどございました。またその一方では、労働力需給システムの整備など、雇用対策の具体的施策の提示がされておりました。安房地方では、広域幹線道路網の整備などに合わせ、豊かな自然条件での地場産業、地場産品が数多いが、サービス業への就業者の増加が目立っている一方で、若年労働力を中心に地域外への転出が多く、労働力不足の状況が続いていると指摘をしております。関係機関が一体となった地元就職促進に向けた創意工夫のある取り組みをと結論づけておりました。

今後のことはまた注目をしていきたいとは存じますが、今回私が問題点と

して御質問を申し上げますのは、現在ある雇用の場の現状と今後、また行政とのかかわりでございます。現在館山市内にあるNTT、JR、たばこ産業など、大企業と言われる職場があるわけですが、民営化とともにスタートいたしました各合理化計画によりまして、多くの社員が現在遠距離通勤や単身赴任を強いられております。館山のNTTでは、館山管内で440名が現在220名と半数となっております。転動をした人も、残って働いている人も、かなりきつい状態での仕事を連日しております。企業の都市集中構想により悲鳴を上げているのが実態ですが、私たち市民がこうした企業の合理化により不便な思いをしていることも多くあります。例えば、NTTの番号案内で、今や番号案内にかけまして待たされることは当たり前になっておりますし、JRでは出札口、精算所の縮小や廃止、また線路の保守点検作業の縮小などによります利用客への安全性はどうなのか。たばこ産業株式会社の都市集中への合併などで館山の職場の全社員が遠くへと転動をしていきました。数え上げれば切りがありません。また、JRの特別急行列車の最終便の上り19時10分が休日と期日指定ということで、駅前商店街への影響も大変大きいと聞いております。こうした事実を一企業の問題ということではなく、行政も企業に対し申し入れや話し合いなどを行ってはと思うのですが、いかがお考えでしょうか、お伺いをいたします。

次に、第2点目の質問でございますが、在宅福祉の住宅対策についてお伺いをいたします。障害を持ってしまっても、高齢となっても、住みなれた地域で、我が家で子供や孫や友人たちと一緒に交流しながら暮らしていきたいと考えているようでございます。我が家で普通の生活を送ることができるよう環境を整えること、人間が自立をして生きることを助けることが在宅福祉の最も基本的な課題だと思います。高齢となつての住居の移動は精神的、肉体的に大きなマイナス要因となります。高齢者のほとんどが住みなれた家や地域でその終生を全うしたいと願っていることはよく耳にすることです。しかし、現在の住宅の状況は高齢者や障害者にとって大変不適当であります。大変住みにくい現状と言えるのではないのでしょうか。狭い通路やあらゆるところにある段差、階段など、このような状態は、国が進めていこう

としている在宅福祉重視の福祉政策、まちづくり政策の障害となると言えるのではないのでしょうか。

厚生省の老人保健福祉計画の指摘にあるまでもなく、福祉政策における住宅の重要性に理解を示している先進自治体では既にこの問題を重視しておりまして、高齢者や障害者が住みやすい住宅改造援助を積極的に進めているようです。東京都は既に住宅改造助成制度があるようでございますが、一方で福岡市では階段やトイレに手すりや滑りどめを設置したり、玄関にスロープをつけるなど、安全で快適な家庭生活が送れるように、住宅改築を行った世帯に対しまして所得税額に応じて改造費の一部を補助する事業をスタートさせたそうでございます。

私のかねての御質問の折に触れました江戸川区では、介助を必要とする65歳以上と障害者が住んでいる住宅を改造する場合の改造費を区が全面援助をしております。この制度の中で注目をされるのは、所得制限がなく、助成額の上限がないことであります。家の改造ともなれば相当額が必要となるわけで、援助制度がかなりの自治体でふえておりますが、負担額が大きいと話がつぶれてしまうとか、老人が家族に気兼ねをして遠慮をしてしまうというようなことが起きていることを配慮の結果、江戸川区では全面支援に踏み切ったと聞いております。また、江戸川区のこの制度が普及をしたのは、行政の申請主義に着目をし、せっかくよい制度があっても利用されないことを重く見て、待つ福祉から出かける福祉への転換をした結果だということでございます。

また、県内を見ますと、平成5年度より市川市が65歳以上の寝たきり老人で所得が600万円以下の方に40万円を限度として費用の2分の1を助成、非課税の方は同じく40万円を限度に全額助成をしているそうでございます。また、浦安市では、介護を要する65歳以上の方、身体障害者手帳所持者で介護を要する65歳未満の方を対象に、居室などを改造する場合に1回につき50万円を限度に助成、所得と扶養状況により4段階で住宅改造費の助成を行っているようでございます。

さて、住宅改造援助が館山市では現在どのような形で行われているのかお

伺いをいたします。

次に、小さな2番目のリフォームヘルパーの設置について伺いをいたします。障害を持ってしまった方が一生懸命病院でリハビリをして自宅に帰ってきて、生活できる状況ではなく、結局寝たきりや、また病院に再入院をしてしまうような結果になってしまうことが多いわけですが、病院から退院する際の住まいの整備は必要になっておりますが、現実には家族と医師、ケースワーカーの方が大工さんと相談をしながら何とかやりくりをしているようでございます。私自身も経験がございますが、健康な人が考えるとどうしても不都合が出てまいります。理学療法士やケースワーカー、大工さんと何回も会って大変な苦勞をいたしました。こういうときに的確な助言をしていただける方がいたらなんと非常に不安な中での作業でございました。

平成5年度の厚生省予算の中に住宅改良リフォームヘルパーの創設が盛り込まれたと聞いております。在宅福祉の基本である住宅改良が必要となるため、体の状況を踏まえた住宅改良についての相談や助言を行うこととし、ホームヘルプサービス事業の一環として導入することになったと聞いております。国、県から既に伝達が行われているわけですので、十分市でもお考えのこととは存じますが、館山市におきまして、国の老人ホームヘルプサービス事業運営要領の改正により、新たなニーズに対応できるよう、住宅改善チームを構成し、住宅改良についての相談や助言を行うリフォームヘルパーの創設をするお考えがあるのかどうか、伺いをいたしたいと思います。

次に、第3点目でございますが、毎度御質問を申し上げますが、集団リハビリの状況につきまして伺いをいたします。この7月、8月と集団リハビリが行われたわけですが、参加をされた方に、若干の方にお聞きをしたところ、全員が参加をした合同リハビリは人が多くて大変込み合ったと聞いております。とても楽しく過ごせたとの御意見もありました。集団リハビリ事業は厚生省が打ち出している寝たきりゼロ作戦の中心事業ですので、全国でも広がってきていると聞いております。スタッフの方もいろいろなメニューを考え、御苦勞をしていると思います。スタッフの苦勞が報われる事業となるよう願っておりますが、7月、8月のリハビリを行った感想や、問題

点があるとしたらどういうことがあったのか、率直にお伺いをいたしたいと思います。

次に、4点目でございますが、ことは、冷夏と言われた夏ももう終わろうとしておりますが、とにかく天候不順の年であります。自然が相手の産業といたしまして、農家の方々の御苦労がこんなにも話題に上った年もないと聞いております。私も主婦でございますから、野菜類のこの夏の高騰には大変苦労をいたしました。スーパーに買い物に行きますと、野菜コーナーには商品が少なく、あってもとても高く、ちゅうちょするような状況が続いたわけでございます。東北地方や九州地方の米は特にひどいと聞いておりますが、私たちの回りの米、野菜類の被害状況はいかがだったのでしょうか、お伺いをいたします。

最後の御質問でございますが、5点目の私道の整備に対しましての援助につきましてお伺いをいたします。最近の私たちの周りの道路状況も大分よくなってきましたが、なかなか整備ができなくて困っている場所もあると聞いております。市道整備に関しましては、近年整備状況も大分よくなっているとは思いますが、あとは私道の整備をどうしていくかの問題があるのではないのでしょうか。そこで伺いをいたしますが、私道の整備に関しましては現在どのように対応をしていらっしゃるのか、具体的にお伺いをいたしたいと思います。

以上の5点で質問を終わりますが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木順子議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の市内職場にまつわる問題でございます。この市内職場の雇用状況については、館山公共職業安定所の安房管内におきます平成5年6月の雇用状況を見ますと、求職者数 1,067人、求人数 946人で、有効求人倍率0.89となっております。館山市といたしましては、安房地域の各産業界や学校

及び関係機関等によりまして組織されております安房地域雇用協議会を通じまして、雇用の確保が図られますよう努力してまいりたいと思います。

次に、大きな第2の在宅福祉の住宅対策の問題、その第1点目、高齢者、障害者の住宅改造援助についての御質問でございますが、増改築に係る貸し付け制度といたしまして、生活福祉資金と高齢者及び重度障害者居室等増改築改造資金がございます。また、利子補給制度といたしまして、住宅建設資金利子補給もございます。日常生活用具給付等事業といたしましては、浴槽、湯沸かし器、歩行支援用具等の給付及び浴槽の取り付け費用の一部を助成する制度がございます。

次に、小さな第2点目の改築の手伝いをいたしますリフォームヘルパー制度につきましては、高齢者の在宅生活を支援するため、住宅改良についての相談、助言を行うことを目的としまして、在宅福祉の推進の一環として導入されたものでございます。今後研究してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、集団リハビリの状況についての御質問でございますが、7月15日よりコミュニティセンターを会場に開催しております。回数は、参加登録者全員の場合は月1回、2グループに分けた場合は月2回でございます。現在参加登録者は55名で、7月は43名、8月は2グループに分けて、それぞれ17名の参加を得ております。内容につきましては、専門医によります健康相談、指導及び保健婦によります健康チェックのほか、レクリエーション、軽スポーツ、その他参加者の交流等を通じまして日常生活動作及び社会的機能訓練を実施しまして、家庭でも継続して行えるよう指導しております。また、参加者の反応でございますが、外出する機会のなかった方たちにとりまして、参加に対する不安が多少あったようでございますけれども、実施後は楽しみにしているという意向が寄せられております。

次に、大きな第4、天候不順による農作物の被害状況についての御質問でございます。ことしの異常気象——冷夏、長雨、加えて台風、こういう影響を受け、被災をされました方にはお見舞い申し上げます。水稻につきましては、8月15日付の作況指数で申し上げますと、千葉県で97、館山市を含んだ安房、夷隅も同じく97と発表されております。しかしながら、その後の天候

も思わしくなく、前回発表されました作況指数を下回るものと予想されます。今後の具体的な作況指数につきましては、関係機関の調査により、9月下旬に発表されることとなっております。また、野菜等につきましても、生育のおくれ、収穫の減少が見られると伺っております。

次に、大きな第5の私道の整備に対する援助についての御質問でございますが、私道の整備につきましては、昭和63年度より館山市私道舗装等助成金交付要綱、これに基づきまして実施しております。助成率につきましては最高65%であり、今後ともこの制度の活用を図り、整備を進めてまいりたいと考えております。なお、平成5年度より交付要件を10戸から8戸に緩和いたしました。また、コミュニティ事業補助としての生活道路整備事業につきましては、公道または公共施設に接続している公共性の高い生活道路の整備で、事業費が20万円以上のものにつき補助を行っております。補助率は3分の1、補助限度額は20万円となっております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） それでは、再質問させていただきます。順序に従ってやりたいと思いますので、お願いします。

1番目の雇用状況についてでございますが、現在働き盛りと言われている年代の方で再就職できなくて困っているという人が多いという話も聞きますが、一方では、職安の方の話ですと、働く場はあるんだけど、人が来ないという状況もあるというようなこともお聞きするわけなんです、その辺のことはもっと踏み出して私も聞いてこないとちょっとよくわからないというところもあるかと思いますが、先ほども申し上げましたとおり、企業などの合理化によりまして市民や近隣の住民たちに直接与えている問題点 — 例えばさっき申し上げましたNTTの番号案内ですとか、JRの列車本数の改正などは申し上げたとおりなんです、一番わかりやすい状況のお話を1つ申し上げたいのは、私たちが一番日々使いますJRの問題なんですけれども、駅前の通り — ちょうど飲食店が何軒かありますけれども、前とは大分その中の様子が違うということが入りますとよくわかります。7時10分の特急が

なくなったためというようなことをおっしゃっている方もいらっしゃいましたが、私もあながち影響がないわけではないなということを実感してきました。そうなりますと、やっぱり市民生活を脅かすというようなことにもなりかねませんし、こういうことを踏まえた上で市長さん、市民に対して、そういう人たちに対してどういうふうにお応えをしていくのか、お考えをお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） JRの特急の減便によります影響ということの御質問でございますけれども、これはJRさんの方の経営の問題等からそういうような、減便というようなケースが出たというふうに私ども受けとめておるわけでございますけれども、そういう周辺の商店街への影響というようなものが御質問のように出ているというようなお話でございます。その辺を踏まえまして、商店街の皆さんにお話をいたしまして、必要に応じましてJRの方にその辺の協議、でき得れば要望をしてまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） ぜひ、大事な市民ですから、そういう方向でしてほしいと思うんですが、もう一つここで――皆さん御存じでしょうけれども、この秋にNTTの1万人の削減、大合理化が行われることは新聞報道されていますから御存じでしょうけれども、この対象の方々は、皆さん40歳以上が対象になっているんです。ここで1つ、この企業のネックがあるのは――普通ですと、今までは地域に対して地域と一緒にやっていくんだというような、たしかNTTさんもそういうことを企業として発言して、さまざまな地元のお祭りであるとか、そういうところにも積極的に参加をしてこられていると思うんですが、ここでネックになっているのが、NTTで希望退職を募って、再就職のあっせんはしないというようなことなんだそうですが、御存じのようにこういった企業は、NTTに限らず、都市集中型というか、集中構想というんですか、方針があるようなんで、私たちの身の回り

にもたくさんいらっしゃるんですけれども、こういう言い方をしているのかどうなのかわからないんですが、人の判断にもよるんでしょうけれども、ここは田舎ということなのか、考え方なのか、過疎という考え方なのか、ちょっとよくわかりませんが、こういうふうなやり方をされますと、ますます私たちのような何もない——それこそ今の状態では何もないわけなんですけれども、そういうような人たちが40代の働き盛りで会社をやめて地元で働くと言って、果たしてその人たちがちゃんと生活していくのにどうなんだろうかというようなことを非常に危惧するわけなのでございます。

先ほどの経済部長さんの答弁の中に関係機関とというような話も若干ありましたが、ＪＲにもう一つの案が出ていまして、館山がこれは直接関係——館山駅が関係しているかどうかということとははっきりしません。定かではありませんが、内房線は御存じのとおり赤字路線だそうです。だから、あらゆることを削っていくということをはっきりＪＲの方はおっしゃっていました。この中で出ているのが、早朝、それと終了に近い列車の８本の電車を今度のダイヤ改正なりで改正していくというような話をつい最近お聞きしました。これが本当に事実ですと、遠距離通勤をしている方が今でも多いわけですから、こういった方々の中にも、とても早い列車がなくなる、遅い列車がなくなるということについては、通勤できないということで、出ていかざるを得ない、単身赴任をせざるを得ないというように言っている方もいらっしゃるわけです。

そういうことを踏まえた上でお聞きをしたいんですが、例えばこういう——ＪＲの企業内の問題ですけれども、電車の本数が減るとかというようなことがある場合、今までもあったと思うんですが、そういった場合、ＪＲさんの方から市に対して、行政側に対してのこういうことになりますというような御説明なりが事前にあるんでしょうか、どうなんでしょう、ひとつ伺いしたいんですが。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 御質問のＪＲでそういうような変更をする場合に事前に通知があるのかというような御質問でございますけれども、今回そ

ういう次のダイヤ改正に向けまして減便の計画がある、私どもまだ聞いておらないわけでございますので、過去にも事前に市の方に通知等はなかったのではないか、このように考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 事前にないということだと——企業というのはその企業内のことをお考えになっていけばいいのかもしれないけれども、でもやっぱり私たちの足となり、生活する上には非常に不可欠のものですから、やっぱりこれは、そういった話し合うような機会があるとすれば、ぜひ今後のことも含めて話し合いをしていただきたい。例えば、もしそういったお話が今後あった場合、会社側からあった場合は、私たちの困るという状況もきちんとお話を願いたいというふうに要望しておきます。雇用問題については終わります。

それで、2番目の在宅福祉の住宅対策について伺います。先ほどの御答弁の中で、融資制度ですよね、これは。融資制度だと思うんですが、確かに私ども社会福祉協議会が従来の貸し付け制度——貸し付け制度と申しておるようですが——の枠を、今までは150万だったのが今度500万に上げたというようなことも聞いております。それも見せていただきました。それだけ在宅福祉に重点を置いていこうという方針だろうと思うのですが、私は貸し付けではなく、助成制度をぜひやっていただきたいというふうにお願いをします。

リハビリセンターの先生と先ほどお話をする機会がございまして、退院後の患者が家庭へ帰っての状況ということで若干お話をいただいたんですが、病院に携わっている方の意見ですから、お考えですから、本当になるほどと思うことなんですが、それはどういうことかといいますと、病院を出られても、ほとんどの方が家庭で寝たきりになっているか、あるいは病院へまた何か月もしないうちに戻ってきてしまう。あるいは新たに施設への入所をお願いできないだろうかという話がある。この3つだということなんです。私ごとで大変恐縮ですが、うちも倒れてから7年在宅で介護をしておりますが、実は先生、うちは7年になりますという話をしましたら、そういう人は、寝

たきりにもならないで7年うちにいращるというのは余り聞いたことがないというような話をされまして、どういうふうなことをされたんですかというのを逆に聞かれたようなわけだったんですが、先ほども質問の中で申し上げましたけれども、老人の方がうちでやっぱり生活したいと願っている姿というのは、これ経験した人じゃないとわからないと思うんですけども、私自身も施設へということも全く考えなかったわけではございませんが、やっぱり胸が痛いんです。できれば家庭でと思うのがやっぱり人情だと思うんです。

そういう中で、この制度が—— どういうふうにやっぱり行政としてこの人たちを支援していくかということは非常に大事になってくる。ましてや、国が在宅福祉ということをはっきりと打ち出してやっていこうとしているわけですから、ぜひこれ貸し付け制度ということではなく、援助ということで、助成ということをお願いをしていきたいと思うんです。

ちょっと具体的に1つお聞きをしますが、浴槽の補助、あと浴槽の取り付け費用の補助ということがありますが、具体的なこれ金額出ますか、それともかかったものについて何%とかということなんでしょうか、お伺いします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 浴槽の補助ということでございますけれども、これはかかった費用に対して幾ら助成するんだと—— 家庭の状況によってかかる経費はまちまちでございまして、要はかかった費用を所得税に応じて御負担をしていただいているということが今館山市の取り扱い上の規定でございまして、当然生活保護をお受けになっている方につきましては、これは全然負担がかからないわけです。段階的に所得税に応じて御負担をいただいているという内容で、幾らかかって何%助成するんだという取り扱いではございません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） わかりました。

障害者がうちの中に入るような浴槽というのは—— 浴槽だけじゃありませ

んけれども、非常に高いんです。私も随分パンフレットとか、先生方とお話ししながら調べたんですけれども、大抵病院にある医療器具と名がつくだけで非常に高いものになる。数十万円のものほとんどなんです。とても正直言って買えるものじゃないんです。もう一つ言えば、例えば車いすなどでうちの中を通るのに段差があるといけませんから、さまざまなレールの下に――下を向けたレールですか、くぼんだレールとか、あと滑りどめの床材とかを利用するわけですが、これもどうしても割高になるということで、生活するのに必要なそういうものを全部合わせますと、相当な額になっちゃうんです。中には大工さんたちでも本当に親身になって、たまたまうちはよかったです、この御苦労というのは大変だったということは、私自身申しわけないなというふうに思った次第なんです、でもこういうことを本当に市の方で援助していただける、行政で援助していただけるというふうになった場合は、もっと寝たきりがなくなるというか、病院にまた戻らなきゃいけないことがなくなるということがあるわけですから、ぜひその辺のことを踏まえまして、これは貸し付け制度ということじゃなくて、助成ということで取り組みをしていってほしいということをお願いをしておきます。

それと、次のリフォームヘルパーのことなんですけれども、今後また研究していくということなんです、流山市ではこの5年度に月1回相談コーナーというのを設けてやっているそうですが、非常に好評だという話も聞いております。このリフォームに関して、前の住宅の問題と重なるんですけれども、リフォームにつきましては、私たちは本当に健常人ですから、例えばいすの高さはどれぐらいあったらいいだろうとか、手すりの太さはどれぐらいのものが適切なのかとかいうことは全くわからないわけです。その辺で一番苦労が多いようなんですが、数え上げれば本当に――え、こんなことともいうようなことがいっぱいあるわけです。今後研究していくということなんです、ぜひ専門の方々にこれはチームをつくっていただいて対応していただきたいということをお願いをしておきたいと思います。これは国の方から通達が出ているわけですから、近い将来そういう制度ができるだろうということで、期待を申し上げておきます。

次の集団リハビリなんですけれども、これ7月、8月とやりまして、本当にふだん家の中にこもりがちの人が外に出ますと、非常に不安に思うということがよくわかります。その中でも、回を重ねるごとに楽しみにしておられるというようなこともお聞きをいたしました。

ちょっとこの中で、問題点としてちょっとお聞きをしたいんですが、場所ですよね。場所はコミュニティセンターを使って行ったわけなんです、場所が狭いんじゃないかという声の一部にあった。これは多分合同リハビリのことじゃないかと思うんですが、それと身障者用のトイレが少なく、狭いと感じた方がいるとお聞きをいたしますが、どうでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 集団リハビリの会場、今コミュニティセンターでやっておりますけれども、場所が狭い、特にトイレの関係で御指摘をいただきました。この関係につきましては、今常設が実はあるわけです。そのほかに、実施をするときに別室にポータブルトイレ、これを設置をしております。そういったことで、常設と、それから臨時のポータブルトイレ、これをあわせて設置をしておりますので、現状では不便だという声は聞いておりません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 確かにトイレが少ないということで、ポータブルを使ったりして利用をしているようなんですが、地域別に分けた場合は人数が少なくなるわけですからいいと思うんですけれども、それで十分できると思うんですが、合同のときが一番大変なんだろうなというふうに思うんですが、これまだ始まったばかりですから、将来的にこの事業がもっと利用する方がふえてきた場合、そういった場合に、場所についてはそのときにはまた考えなきゃならないというようなことも出てくるんじゃないかなというふうに思うんですが、どうでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） この訓練につきましては、一番のそのポイント

は、集団で行うところにこの意義があるわけです。そういったことで、今現在は50何人かの対象者ということで、コミュニティセンターの1会場で行っているわけでございますけれども、ほかの地域でということも考えられますけれども、当面は今の現状の体制で、数がふえてきた場合にはどうするか、これは次の検討課題になろうかと思っておりますけれども、現状ではコミュニティセンターの会場ということで進めてまいりたいと思っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） これは確かに集団リハビリという事業ですから、集団で行うということはまさにそのとおりなんです、人数的に50人であろうと100人であろうと17人であろうと、集団は集団で結構だと思います。それで、私も視察などをしまして見てきましたけれども、先進地では大抵月1回ということではなくて、連日というところもありますから、連日行っているというところもありますから、そういうところでは人数が——細切れという言い方はどうかと思うんですが、非常に皆さんが回転よく利用なさっているというふうなこともお見受けいたしました、館山もああいうような状況でどんどん回転よく皆さんが利用されていけばいいなというふうに思っております。ぜひそうなることを願ってやみませんが、もう一つ、この事業を始めるのに保健課の方々、あとボランティアの方々が大変対応なさっていて、苦勞なさっていて、見ていて人員の配置について大丈夫なのかな、大変なんじゃないかなというふうに思いました。人員配置、やってみてどうでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 現段階の回数、この範囲内につきましては現員の体制で対応しているわけでございますけれども、それぞれの立場で努力しておるわけです。したがって、現在の回数の範囲内だったら今の体制でまず問題ないだろうという現場からの声も聞いております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 本当に課の方が、職員の方が全力でこの事業を、新

しい事業を乗り切ろうとしているのは見ていても本当によくわかります。ただ、わかりますが、私は一つこれすごい疑問に思ったんですが、たしか去年の質問の折に栄養士さんをぜひ常勤にと——これ同じ保健課なんですが——お願いしましたが、栄養士さんは確かに常勤でお入りになったんですが、職員の方が1名出られちゃったんです。こういう事業が始まるのにどうなんだろう。もっと人員はふやしてもいいぐらいなのに1人出てしまった。交代というんですか、栄養士さんと1人の方が交代してしまったというようなことで、人数的には変わらないんだかもしれませんが、その辺の考え方というんですか、今後職員の配置に際しましては、新しい事業を抱えていくのはもうわかっていたわけですから、今後本当にふやしていただくよう配慮をお願いしたいと思います。集団リハビリの再質問はこれで終わります。

次に、4番目の農作物の問題なんですが、確かに私の聞いたところでも、聞いた時期が9月初旬でしたから、そんなに悪い——悪いというんですか、全国的に報道されているような悪い状況ではないというようなことがありました。ただ、米であれば、1反が例年より1俵から2俵少なくなっちゃうというようなことですので、私はこれは多少悪いということよりも、大分影響があるんじゃないですかというようなこともちょっとお話し申し上げたんですが、今後数字的には出てくると思うんで——ただ、館山特有の花でありますとか、今からこれにかかわってくる、天候にかかわってくる農作物というのが非常に多いわけです。そういったときに、天候が相手なんですけれども、関係機関あると思いますが、そういう被害が思った以上に出てきた場合、即対応していただけるのでしょうか、お伺いします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 御指摘のように、水稻を含めまして、夏野菜等につきましては、先ほど市長が答弁申し上げましたような被害の状況でございますが、今御質問の今後の——現在育苗期間であります花とか、そういうふうなものに被害が出た場合、どのような対応というような御質問だと思いますけれども、確かに日照時間等の不足、雨の降る日数が多いというような中で、農家の皆さん方も大変御苦労されているというふうに私ども伺ってお

るわけでございますが、現在のところ育苗等に特に支障が出ているというようなお話は伺っておらないわけでございますが、ただ今後の気象状況によりましてはそういう懸念もあるわけでございます。その結果によりまして、どのような市としての対応ができるのかどうかとか、その辺の判断をしてまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） その節は本当によろしく御配慮をお願いをしたいと思います。

最後の質問なんですけれども、私道の援助についてなんですが、補助率、これ最高で65%というような数字を出されましたが、これ昭和63年より行っているんです。本当に機材も資材も値上がりしていますんで、これ65%ということじゃなくて、もう少し上げていくような、補助率を上げていこうというようなお考えはありませんか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 平成5年度に交付の要件を10戸から8戸に下げたわけでございますので、このままで当分の間推移を見たいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 確かに10戸から8戸にお下げいただいたということについては大変ありがたいんですが、できれば — これに間に合わないぐらい、追いつかないぐらい本当に — 私も見積もりしてもらったら、こんな額になるのかということで、手も足も出ないというのが現状なんです。そういう人が結構いらっしゃるんです。この65%という補助をいただいても追いつかないということがありますんで、今後もこの問題につきましてはぜひ補助率を上げていただけるよう御要望をしておきたいと思います。

以上で終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で7番議員鈴木順子君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開いたします。

午前 11時51分 休憩

午後 1時02分 再開

◎議長（福原 勲君） 午後の出席議員数21名、休憩前に引き続き会議を開きます。

次、9番議員脇田安保君。御登壇願います。

（9番議員脇田安保君登壇）

◎9番（脇田安保君） 質問に先立ちまして、故流山源次郎さんの御冥福をお祈り申し上げます。

私は、既に通告してございます諸点について御質問いたします。

今まで自民党一党支配のもとでは、政治腐敗が起きても、政治改革が叫ばれるだけで、改革が先送りされ、選挙では政権が動かない、また腐敗が起これという悪循環を繰り返してきました。今回の国民の審判は、この悪循環を切り、時代の新しい扉を開いたと言えると思います。長期にわたる自民党政権にかわって、8党派が新しい政権を担当する新局面を迎えましたが、これは日本の民主主義の最大の欠陥であった政権の交代のない政治の閉塞を打破する画期的な出来事であり、今後に向けてその意義は極めて大きいと思います。

さて、連立政権のスタートによって日本の政治は大きくさま変わりすると思います。政権交代によって、自社なれ合いの55年体制は完全に破壊し、同時に自民党政治にも終止符が打たれ、国会は自社なれ合いのわかりにくい政治から国民に開かれた政策論争中心の場に変身し、国の政策運営も生産者、大企業中心から生活者優先、消費者重視に大きく転換し、連立政権時代は民意が政治に反映する真の議会制民主主義の開幕になるであります。

経済企画庁が14日発表した国民所得統計速報によると、ことし4月から6月期のGNPは、個人消費や設備投資、輸出などの落ち込みにより、物価上昇率を差し引いた実質で前期の1月から3月期に比べてマイナス0.5%になり、年間の成長率に換算するとマイナス2%であります。また、同庁は景気は底をはう状態と厳しく受けとめ、政府はきょう緊急の経済対策を打ち出す

ようですが、大胆な景気刺激策は望み薄で、今年度下期に期待されていた景気回復は大きくずれ込みそうであります。

こうした経済状況の中で、御承知のように金丸前自民党副総裁や仙台市長、三和町長、茨城県知事など、自治体首長への多額のやみ献金事件をきっかけに、ゼネコンの談合体質、政治家への癒着ぶりが改めて世論の指弾を浴びている実情であります。同時に、公共事業落札のための指名競争入札制度が持つ不透明な仕組みが談合や政、官、業癒着の温床になっている実態も克明に浮かび上がってきたと言われています。腐敗を生むこの構造は、公共工事の開放を話し合う日米構造協議の場で抜本的な改革を迫られるなど、海外からも批判されているところであります。自民党一党支配下で養われた利権の構造とその腐敗ぶりを見せつけられた思いであります。

こうした癒着の可能性や危険性は国や県の関係のみに発生するのでありましょうか。私は身近な地方行政においてもこのようなことが起こらないように日ごろから配慮していくことも大事なことであると考えるものです。このような観点から質問申し上げます。

まず第1点は、工事入札制度についてどう考えるかという質問であります。入札の原則は、地方自治法第234条により一般競争入札であり、指名競争入札は政令で定める場合に該当するときに限りこれによることができるとし、政令では第167条により、一般競争入札に適しないものとか、一般競争入札にすると不利と認められるときなどと限定されております。以上のことから、入札の原理は一般競争入札であり、ごく限られた例外として指名競争入札が行われるべきが地方自治法精神であると思います。そこで、現在当市の入札は一般競争入札と指名競争入札のどちらを採用しているのかお答えを願いたいと思います。

第2点としては、多くの自治体の場合は入札制度の権限が首長に集中するため、業者と首長の間に癒着の温床が生まれやすいと言われておりますが、当市の業者指名はどのように行っているのですか。つまり、業者指名の選定はどこでどのようにして行われるのかお答え願いたいと思います。

第3点は、指名業者のランクづけは何を基準にしているのかお答え願いた

いと思います。

第4点は、継続工事の場合の指名業者選びはどのようにして行うのか。

第5点は、一般と制限つき一般競争入札、それと指名競争入札のメリット、デメリットは。また、公募型指名競争入札についてどのように考えているか。

以上、この件につきましては5点について御質問いたします。

次に、水道事業についてお伺いいたします。御承知のように、水は日本で唯一の豊かな自然資源であり、市民は安全でおいしい水を求めています、工場排水や農薬、生活雑排水などによって汚染は年々進み、国民の不安をかき立てているというのが実情であります。こうした中、厚生省の私的研究機関、水道水源水質保全に関する有識者懇談会は、国民の強い要求である安全でおいしい水を確保するために、河川や湖沼など水道水源の水質悪化を防止するための報告書を厚生省に提出しています。その報告書によると、昨年12月に大幅に強化された厚生省の水道水質基準に対応した水道行政を確保していくためには、水道水源そのものに着目し、良質な水道水源の確保のため、水質保全の対策が急務であるとしております。また、有機溶剤等の化学物質、農薬や肥料、生活雑排水、上流域などによる開発等による水質の汚染が進行していることを指摘しております。

さらに、こうした現状を踏まえて、有識者懇談会で次のような事柄が改善策としてまとめられました。1として、排水が水道水源を汚染する可能性がある場合、地域を指定して都道府県、市町村が排出基準に上乘せする形で規制値を設定する。2として、水道水源の周辺地域で多量の農薬を散布する場合は使用量を届けさせ、監視を強化する。3、河川の上流域にある簡易水道水源を守るため、ゴルフ場や宅地開発などの規制ができるべきであるとしています。中でも、水道水質基準の規制物質を排出する企業及び事業所を特定施設として、規制区域内で基準を上回る排水をした場合、何らかの罰則を科すべきであるとしております。企業責任を明確にしようとするものであります。

そこでお伺いします。厚生省はこの報告書に基づいて国会に法案を提出する方針を固めているようであります。この法律ができれば、水道水源の確保

はかなり前進するし、水をきれいにする上で極めて現実性があり、効果が上がると思います。そこで、報告書の水道水源の水質を保全するための区域の指定、工場または事業所の排水に関する規制、農薬、肥料の使用の適正化、生活雑排水の適正処理、上流域の水道水源の水質保全対策の5項目は、安全でおいしい水を市民に提供する意味で極めて重要な問題であります。日本水道協会でも、懇談会の報告書にある提言が一日も早く実現されることが必要であるとされています。国は水道水源の水質保全に関する法律の制定を検討していますが、市の取り組みについて伺いいたします。

水道水の安全性について、国際的な評価の見直しの傾向などを踏まえ、今まで26項目であったものがことし12月1日に46項目の施行となっております。新たに水質基準に追加された項目は洗浄剤や農薬等排出元が特定しにくいことから、今後その使用が拡大すれば、水道事業者が新しい水質基準に適合した水道水を供給するのは困難であることが予想されます。

そこで、第1点としては、市は水道水の水質基準の改正と新基準への対応についてどのように対処されるのか、お考えをお伺いします。

第2点は、水道水は水質基準に適合しているからそれでよいというのではなく、夏に発生する水道水のカビ等において——オゾンと粒状活性炭を使用した高度浄水処理システムを南房総水道企業団で導入を計画しているのかお伺いいたします。

第3点は、未給水区域内で水道管布設は何%完了したのか、進捗状況をお聞かせください。

第4点は、平成5年度の水道事業の国庫支出金は全額見込まれているのか。

第5点は、国道128号線国分地先の国道改良工事になぜ水道管を布設しなかったのかなどについて御答弁を賜りたいと思います。

次に、館山工業団地の進捗について伺いします。この点につきましては、私はたびたびお尋ねしている問題であります。安房地域の中心である館山市の活性化を急ぐべきと考えております。館山職安では、最近高まりつつある都会からのUターン者の求職に応えるUターン対策事業に乗り出すということであります。新規高卒者を中心とした若者の労働力は県北や県外志向が

強く、その大部分が流出しているというので、地元企業でも労働力確保に躍起になっていると言われています。地元企業に就職を希望したくとも、選択する企業がないから県外に職を求めますという新卒者が何年も続いているのが現状であります。また、逆に職安の求職窓口には最近になってUターン希望者が訪れると言われていますが、現在のように景気が悪く、求人をする企業が少ないので、若者の地元への定着と安房地域の過疎化の歯どめとして、この工業団地の速やかな推進を願うものであります。

そこで質問であります、この事業の進入路と、工業用地の取得は何%になったのかお伺いします。

第2点目は、企業の操業開始は何年を見通しているのか、お答えをいただきたいと思います。

最後に、保育事業についての質問であります、我が国の出生率はここ数年じりじりと下がり、1人の女性が生涯に産む平均子供数は1.50人まで落ち込み、史上最低の水準であります。厚生省はあと2年で底を打ち、やがて1.80人まで回復すると見ていますが、現在の人口を維持する2.1人まで戻る可能性は低いと言われています。人口構成が高齢化すると、税金や年金保険料の現役世代の負担が重くなり、労働力不足で社会の活力も低下してくる。このように、人口の急激な変化は社会に与える衝撃が大きいと言われている。

また、現在では共働きの家庭がふえています。ですから、仕事の都合や家族の急病などで子供の面倒が見られない場合に保育所で一時的に預かってくれれば大変助かるという声を耳にしますが、現行の児童福祉法では、子供を保育所に入所させるには、父母ら保護者が1日最低4時間以上働いていることなどが必要であります。最近では核家族化や女性の社会参加の機会が多くなり、短期間、短時間の保育を希望している人も多いです。この場合、保育サービスとしては2種類に分けられると思います。つまり、一つは仕事の都合の場合であり、週3日程度断続的に家庭での保育が困難となる場合の非定型保育、もう一つは災害や事故、急病や冠婚葬祭などによる緊急の場合のサービスです。この保育サービスができないかというのが私の質問であります。

また、共働き家庭の経済的負担の軽減と子供を育てやすい環境づくり対策として、保育所に通う第2子以降の保育料を無料にできないかと思うのですが、どうでしょうか、御答弁をお願いしたいと思います。

以上、御質問申し上げました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの脇田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の公共工事に関する問題の小さな第1点目、公共工事入札制度についてどう考えるか、この問題につきましては、公共工事入札制度について、普通地方公共団体の契約締結には一般競争入札、指名競争入札、随意契約等の方法がございます。館山市は、地方自治法施行令第167条に基づきまして、指名競争入札により実施しているところでございます。

小さな第2点目、指名業者はどのような手続で選ばれるかとの御質問でございますが、館山市に建設工事入札参加資格審査申請書が提出されました業者を資格審査し、登録された業者の中から、請負工事金額制限基準に基づきまして、工事の難易度、工事実績等を考慮し、選定しております。

次に、小さな第3点目、指名業者のランクづけは何を基準にしているのかとの御質問でございますが、館山市建設工事等入札参加者資格審査規程に基づきまして、建設業法に定める経営事項審査点数及び工事成績、工事経歴等による審査採点を総合点数として等級格づけを行っております。

次に、小さな第4点目の継続工事の場合の業者選びはどのようにして行うのかとの御質問でございますが、館山市におきましては、単年度1事業として、小さな第2点目でお答えしました方法により業者の選定をしております。

次に、小さな第5点目、一般競争入札と指名競争入札または公募型指名競争入札についての御質問でございますが、一般競争入札は、一定の資格を有する不特定多数の参加を求めるものでございます。制限つき一般競争入札は、一般競争入札の資格基準のほかに入札参加条件を加えた上で入札を行うものです。指名競争入札は、指名基準に基づきまして業者を選定し、また公募型

指名競争入札は、参加業者を公募し、公募業者の中から指名基準に基づきまして業者選定し、入札を行うものでございます。いずれの入札制度におきましても、それぞれの長所あるいは短所がございます。入札につきましては、今後とも適正な手続により公正に執行してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2の水道事業にかかわります問題の小さな第1点目、水質保全新基準に関する法律制定について、館山市の取り組みについての御質問でございますが、新しい水質基準はことしの12月1日から施行されます。今回の改正では、大腸菌、においなど26項目の現行基準が一般有機化学物質や農薬などを加えました46項目に増加されましたので、厚生省が定めたこの省令に従い、安全でおいしい水の供給に努めたいと考えております。

次に、小さな第2点目、高度浄水処理システムの導入についての御質問でございますが、南房総広域水道企業団の原水と同じ水系から取水しております九十九里地域等の水道事業体では、水質上特に問題はなく、厚生省の定める水質基準を満たしておりますが、企業団では、将来おいしい水の供給を目指して、高度処理施設を整備できるよう浄水場建設に当たって配慮していると同っております。

次に、小さな第3点目、未給水地域内で水道管の布設進捗状況の御質問でございますが、館野、九重地区へは約25キロメートルの配水管布設を予定しております。平成4年度末まで3.3キロメートル、13.2%の布設をいたしました。今年度は4.8キロメートル、19.2%の布設をする予定になっており、合計8.1キロメートル、32.4%の布設となります。

次に、小さな第4点目、水道事業補助金は全額見込まれるのかとの御質問でございますが、平成5年度国庫補助金の当初内示1億円が4月にあり、その後6月には7,000万円の追加内示がありましたが、当初予算に計上いたしました2億5,816万8,000円の満額確保は難しい状況でございますので、計画年度内に事業が完了できるよう、国庫補助金確保の陳情活動等、鋭意努めているところでございます。

次に、小さな第5点目、国道128号改良工事になぜ水道管布設をしないのかとの御質問でございますが、国道128号への配水管布設は、前年度まで1.1

22メートル、今年度は 3,247メートル布設する予定であります。通常の場合、配水管布設計画のある道路改良及び舗装修繕箇所においては、工事費の軽減や交通支障を少なくするため、事前に関係機関等と打ち合わせをしまして、配水管の布設を先行して工事を実施しているところでございますが、御指摘の国分地先につきましては、交通事故防止上、急遽道路管理者が交通安全施設の工事を実施することになったためでございます。

次に、大きな第3、館山工業団地にかかわる問題でございます。その小さな第1点目、進入路及び工業用地の取得に関する御質問でございますが、進入道路については、現在工業団地側から1キロメートル部分について企業庁で詳細設計及び測量調査中であり、終わり次第用地取得に入る予定でございます。また、工業団地の用地取得率は、8月末現在で面積で約23万6,000平方メートル、おおむね83％でございます。

次に、小さな第2点目、企業の操業開始は何年を見通しているかとの御質問でございますが、企業庁の事業スケジュールによりますと、平成12年度を目途に事業が完成する予定になっております。したがいまして、現在の予定では平成12年度以降と考えております。

次に、大きな第4、保育事業にかかわる問題の小さな第1点目、短期保育事業についての御質問でございますが、現在1日4時間、1カ月16日以上就労を保育に欠ける状態と認定しております。また、家族の事故及び出産前後の期間の措置も行っておりまして、特に災害や急病等緊急を要する場合も短期の措置を行っております。

次に、第2子以降の保育料を無料にできないかとの御質問でございますが、現在、所得税高額納税者を除きまして、2人目につきましては50％、3人目につきましては75％を減額しております。今後も現行制度により実施してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） ただいま市長さんから御答弁いただきましたので、何点か再質問させていただきます。

まず、入札制度の問題点についてでございますが、この入札制度の問題は古くて新しい、新しく古い問題であるように思います。1年に1回ぐらいはこの談合の事件が起き、新聞記事をにぎわすのが現状でありますけれども、このような事件は今までは日常茶飯事の問題で片づけられていたように思います。今度この事件が起きたのは、政界のボスとも言うし、ドンとも言われる人物が裏金づくりをした手法の一つとして、この公共工事をめぐる政、官、業の利権構造が問題となったわけであります。その舞台裏で、癒着の温床になっている入札制限の改善がクローズアップされてきました。この問題が毎日の要するに新聞等にここ何カ月も続けて掲載されております。

その新聞の報道の一部をちょっと紹介してみますと、まず今世紀最後とも言われる大プロジェクトの東京湾横断道路の建設は、指名競争入札は形だけでと報道されています。実際は事業主体の東京湾横断道路株式会社の側で、工事を請け負わせる総合建設会社——要するにゼネコンですね——ですべてを選んで、各共同企業体の管理会社まで決めていたことが朝日新聞社の調べでわかったというように報道されております。また、この発注をめぐって一部のゼネコン首脳は、共同企業体になるため、金丸元副総裁から有力政治家に横断道路建設株式会社への働きを依頼したとも言われております。また、もう少し身近な例で申しますと、千葉県でも先月から県庁の新館工事が着工しましたが、その入札直前に落札グループは大成グループというような談合情報が流れ、県は一たん入札を延期し、関係者に事情聴取をした後に再入札を行ったのですが、情報どおりに大成建設、熊谷組、三井建設など、5社の共同企業体で落札したのであります。横浜市では、ことし3月に開業した横浜市営地下鉄の延長工事をめぐって、ゼネコン各社が発注前に談合して、受注する工区をすべて決めていたことが報道されています。これなどは、閉鎖的で指名基準が不透明であり、政、官癒着の温床になっていると批判が強い指名競争入札制度による出来事であります。

これらが最近の新聞などで大きく報道された代表的な事件であります。当市にとりましてこれらの不祥事件がそのまま結びつくものではありませんが、これだけ騒がれますと、一応市のやり方はいかかなものかと考えるのが

一般常識だろうと思います。

そこでお聞きしますが、当市では現在 130万以上の工事はすべて指名競争入札を採用しているというふうに聞いておりますが、国や千葉県など多くの自治体は公共工事の入札制度の見直しを検討しておりますが、当市はこの入札制度の改善委員会あるいは研究会などの設置の考えはございますか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 入札制度の検討委員会等の設置の考えはあるかどの御質問でございますけれども、現在入札制度につきましては国、県で試行がされているところでございます。また、県の指導のもと、県、市町村で組織しています千葉県公共工事契約業務連絡協議会で県の試行結果等を踏まえて現在検討しているところでございます。このような状況を受けて、館山市といたしましては、指名業者選定審査委員会がございますので、その場で問題を検討しているところでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 自治省事務次官ですか、通達が来ております。その中の秩序の確立の中の3番目の項目ですけれども、公共工事の入札、契約手続の適正化というところで、地方自治法施行令第167条の5の2に基づくいわゆる制限つき一般競争入札の活用についても検討を行うとともに、指名競争入札による契約を行う場合、被指名業者名並びに入札の経過及び結果の公表、指名審査委員会の適正な運営を行う等、入札契約事務手続のより一層の透明性、公平性の確保のため必要な改善を加えられたい、このように通達が出ておるわけです。これと、最近の成田市、たびたび新聞等で問題にされております成田市では、150万以上の事業に対して指名競争入札を行っていますが、現在土木工事や大きな建築工事などは、業者による談合の排除を目的に、検討委員会を今月中につくって検討する、改善するというふうに言われております。隣の鴨川市、これは先般議会が行われまして、鴨川市の市長も、指名入札は工事の質や税金の適正な使用などが確保されるが、談合を生みやすい、このように議会答弁しております。ですけれども、デメリットも

あるがとの答えの中で、その中で改善としては、透明性を確保するために改善に向かって検討すると議会で答弁しております。

当館山市、今の御答弁ですと、指名審査会で話し合っていくということですが、この指名審査会のメンバーという方はどのような方ですか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） メンバーは、助役を委員長といたしまして、各部長、教育長を含めたメンバーでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） そのメンバーで審査会を行っていくようですけども、例えば仮にこの検討会を設けたとしても、それ以外のメンバーが加わってくるのかどうか、その点はどうか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 契約事務につきましては庶務課が担当しております。ですから、庶務課の職員を含めて、実務的に各種情報、あるいは県との連絡をとって、十分に実態を踏まえて、指名審査委員会の席でそういう問題を踏まえて論議していくというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） あくまでも検討委員会をつくらないというようなことですけども、大きな市では船橋市ですか、船橋市は問題が起きる前からこの検討に入っているというように報道されております。千葉県内でも多くの市がその検討をされておるわけですけども、館山市は審査会でやるから別に問題ないというような答弁であります。要するに何事も起こらないからこのままでいいんだと。私の考えでは、あらゆるところでこの問題が大きく取り上げられているのが現状であるわけです。ですから、やはり前向きに検討していくべきだと思いますけれども、市長さんはどのように考えますか。

◎議長（福原 勤君） 助役。

◎助役（小幡清之君） 検討しないということではないわけでございます。検討委員会をつくって検討しなければならないということじゃなくて、審査

会で十分に検討も既に行っていますし、現行の組織で検討できるということ
でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） できるということですから、そうするとどの程度の
— 現在検討されている内容を御説明いただきたいと思うんですけれども、
船橋市は1億円前後から一般競争入札、制限つきですか、そのようなものに
していきたいというふうな話もあります。それから、今現在議会で議決を得
なければならない金額が1億5,000万、館山市は1億5,000万になりました
から、それを一応一つの目安にしていくなのか、それともその1億円を目安に
していくなのか、そのような検討は現在されたことがありますか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（齊藤賢司君） 入札制度につきましては、先ほど市長が答弁し
ましたようにいろんな方法がございまして、それぞれ長所、短所がございま
す。この長所、短所の問題点について現在検討しておるわけでございます。
制限つき一般競争入札ということが言われておりますけれども、これにつき
ましても、やはりいろいろ検討いたしますと、いわゆるその基準をどのよう
に定めるか、あるいはその条件の定め方によっては指名競争に近いような形
になってしまうんじゃないかと、そういういろんな問題がございまして、
そういう問題点を現在洗い出しているところでございます。

いずれにしても、先ほど申しましたように県の指導もございまして、県
の方で現在試行もしております。そういう結果を踏まえて、先ほど申しまし
た協議会でも論議されております。そういうものを受けて、80市町村がある
程度の線を踏まえた上で、館山市も適正な入札制度を確立するために具体的
な方策を示していきたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 審査会で行って、適正な検討をしていただきたいと
思います。

次に、今やはりこれも新聞で騒がれておりますけれども、献金問題でござ

います。これは特に私も気にしておりまして、ずっと資料等を調べておるんですけれども、最近何日か新聞に載ってくる中で、市原市のトンネルの工事と下水道工事の再入札という事態がありました。それで、これは再入札のときは大手ゼネコン21社を指名から外して、かわりに準大手建設会社10社を指名し、入札を行ったわけです。市原市がその大手ゼネコンを外した理由について、疑惑が取りざたされているので、入札やり直しという事態になっては困るというために、その再入札のときに21社——これはいろいろ報道されている中で、その業者を外して入札をいたしました。ところが、今度はこの準大手という東洋建設ですか、廃棄物処分場建設工事をめぐる談合で所長が逮捕されたということで、再入札の契約を辞退してくださいというような——最初の入札は御存じのように大成建設が落札しましたが、茨城県知事の問題、やみ献金問題で辞退させた。それで、今回は今言いましたように大手21社を抜いたんですけれども、準大手に落札したんですけれども、そのような事態になった。

そのようにいろいろこの入札をめぐってトラブルが大分起きております。そこで当市は現在この大手ゼネコンと言われる——2,000社とも言われております総合建設会社何社その指名参加願が出されておりますか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 大手ゼネコンが何社指名参加願が出ているかということですが、県外の建設工事に対する指名願の出ている会社数は437社でございます。この中には大部分のいわゆる大手ゼネコンというものが入っているものというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 現在437社が指名参加願を出されておるそうでありますけれども、そうしますと、この中で、市原市で言われているように、21社ですね、ゼネコンの21社ですとか、現在献金問題で騒がれている建設会社は現在工事を行っておりますか。それと、市原で問題になりました東洋建設、この会社も指名参加願は出されておりますか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 今私どもの方の総務部で所管しております工事につきましては、大手ゼネコン関係の工事はございません。東洋建設につきましては登録業者に入っております。

◎議長（福原 勤君） 脇田安寿君。

◎9番（脇田安寿君） そういたしますと、一つお聞きしたいのは、指名停止の基準と、例えば今回の問題のように談合が発覚した場合、工事契約を辞退させるように市原の場合には議会で助役さんが言われているわけですが、そのような辞退させる基準というんですか、これは決まっておると思うんですが、前回仙台で起きた事件の中で建設会社が4社ありますね。三井、ハザマ、鹿島、清水ですか、この4社と、今言ったように、私の記憶している東洋建設ですけれども、この指名停止、現在この5社のうち — 合わせて5社ですけれども、現在指名停止をされている会社と、この4社は何か月間指名停止になったのか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 現在指名停止中の業者は、清水建設2カ月、西松建設2カ月、ハザマ4カ月、三井建設4カ月ということで指名停止しております。東洋建設につきましては指名停止はしてございません。

◎議長（福原 勤君） 脇田安寿君。

◎9番（脇田安寿君） その指名停止基準 — ちょっと先ほど答弁が漏れたんですけれども、基準はどのようになっているかちょっとよくわかりませんが、現在西松2カ月、清水2カ月、三井、ハザマに4カ月ですけれども、東洋建設の場合に、新聞等では所長が逮捕された、このように報道されております。このような指名停止するのは市単独でするのか、県から指示がなければいけないのか、それとその2カ月という数値は最高なのか最低なのか、その辺はどうですか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 指名停止につきましては、指名停止基準を県に準じて定めておるところでございます。したがって、県とある程度は歩調がとられている状況でございます。ただ、指名停止する場合、その会社の

役員等、あるいは使用人、代表者、それぞれの方が逮捕等をされた場合について、いわゆるその不正行為がどう範囲にされているかによって指名停止期間が定まっております。期間は1カ月から一番長くて12カ月までのものがございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） その中で、たしかハザマだったと思うんですけども、1度指名停止されてから、これ2度目でしたか、2度目の停止がやはり同じ2カ月。ちょっと軽いんじゃないかなと私は——2度目ですから、普通の一般的な今の社会情勢からいくと、2カ月が倍になって4カ月というのはちょっと軽過ぎるんじゃないかなと思いますけれども、そういうふうな基準になっているそうですから、県から言われたものをそのまましているようでありますから。次にお聞きしますけれども、そうしますと、疑惑を持たれている建設会社に対してこれから——Aランクという会社だと思いますけれども、その企業に対して工事指名——今後例えば2カ月で期限が切れましたよ、停止が終わりましたよ、それと4カ月で終わりましたよ、そうしたときに、工事が発注される、入札されるときに、疑惑が持たれた企業に対して工事指名をしていくのか、それとも市の考え方として、県じゃなくて、市の考え方として、どれくらいの期間を一応指名はしないんだという考え方がありますか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斎藤賢司君） 指名停止終了後、じゃあその業者についてどう取り扱うのかという御質問でございますが、公共工事は技術的に信頼のある業者に——市との信頼関係に立って、誠実に履行されるべきものであるというふうに考えております。ですから、こういう条件が守られるということであるという前提に立って指名を考えていく。したがって、指名停止を受けた、あるいはそういう疑惑の報道等がされているということも参考に入れて指名を検討していくということになろうかと思います。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） この点は嚴重に審査会でよく検討させていただいて、契約を結んだ後にいろんな事件が発覚しないように、取り消しをしないようによく審査されてお願いしたいと思います。

それと、先ほどの質問の中で継続工事のことについてと — 2～3もう少しまとめて、時間がありませんから、お伺いしておきたいと思うんですけれども、ちょっと私も疑問な点がございますので、何点かまとめてお聞きします。

現在入札会場、入札する場所ですね、その場所は関係者以外は入れないというように、何か隔離されて暗いような、公平性、透明性がないんじゃないかという気がするんですが、これはなぜ — 市によっては、だれが入札会場に入ってもいいんだという市もございます。館山市は入札会場には入っちゃいけません、関係者以外は入れませんというような規定になっているようですけれども、この点は改善しようという考えがあるのかどうか。

それともう一点、継続工事の業者選びの件ですけれども、同じ工事箇所で最初落札したといいますか、工事を行った企業が続けてその改修工事とか、継続的に工事を続けていくようなことを聞きますが、こういうことは現在行われておりますか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斎藤賢司君） 入札会場を傍聴できるかという御質問でございますが、一般の方が傍聴される場合、入札会場の秩序を乱さない限りにおいてできるのではというふうに考えておりますので、傍聴等については検討してまいりたいというふうに考えております。

次に、継続工事の業者選定についてでございますが、業者選定につきましては、先ほど市長が答弁いたしましたように、指名審査基準に基づきまして指名するものでございます。したがって、指名する場合もあるし、指名しない場合もございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 時間がなくなりましたので、次の水道のと

ころをひとつお願いしたいと思うんですが、これは館野、九重に関してのことでありまして、端的に肝心なところだけをお聞きしますけれども、南房総水道企業団、これは計画どおり平成7年度末に給水される見込みがありますかどうか。どうですか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 南房総の通水時期のことですが、スケジュール的には厳しいという — 短期間でありますので、そういう状況の中で、送水管につきましては約50%完了している状況でございます、当初の目標に向かって南房総企業団関係者が鋭意努力している、そういう状況でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 現在50%の配水管布設だそうですけれども、仮に平成7年度末に送水が見込まれると仮定した場合に — ちょっとお聞きしておきたいんですが、要するに平成7年度末に給水できるということになれば、それを見越して、水に困っている要するに稲、二子、藺地区、その中でもう水が濁ってどうしようもない、飲料水に適しないんだという家庭がございます。それに一日もやはり早く給水をしていくのが一番いいんじゃないかと思っておりますので、平成7年の夏になればもう大まかな給水見込みがつくわけです。そういったときに、現在の給水能力から見て、館野、九重には事前に水を送ることは可能でしょうか、また検討されたことはありますか、伺います。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 南房総広域水道企業団から受水する前に未給水地域への通水が可能かどうか、こういう御質問でございますが、今お話し、御案内のとおり、館山市は夏に大幅に水の使用量がふえますし、また仮に受水前に通水するとなれば、既給水区域への影響、これらも考慮しなければなりませんので、まず南房総からの受水時期を確実に見きわめてから検討したい、こう考えております。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） これは昨年でしたか、一昨年でしたか、市から三芳水道の方に給水体制をとったことがあるわけです。1日1,000トンでしたか、ちょっと記憶がないんですけれども、1日幾らか送って何カ月か過ごしただけの能力はございますので、ぜひとも南房総の送水が見込まれる時点で一日もやはり早い時点で水に困っている方たちに供給していただきたい、そのように思います。

次に、工業団地の質問でありますけれども、時間でありますから、これで終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で9番議員脇田安保君の質問を終わります。

次、21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 既に通告をいたしました6点についてお尋ねをいたします。私が4番目ということで、今回の一般質問最後でございます。よろしく願いいたします。

まず第1点は、衆議院の選挙区制度を小選挙区並立制に変えるといういわゆる選挙制度改革の問題について、市長の政治家としての所見をお尋ねしようとするものであります。

そもそも選挙は国民の意思を国会に反映させるために行うものであることに異論はないものと思います。国民の意思を正確に反映させるということは当然のことであるという点から見ますと、小選挙区制は最悪の選挙制度と断ぜざるを得ません。その選挙区で相並ぶ5候補者が互角の選挙であったとすれば、たとえ20ないし30%の得票という少数にすぎなくても、他に比較して相対多数でさえあれば当選ということになります。他の70ないし80%の票は議席に結びつかない死に票となり、切り捨てられてしまいます。このため、国民の中ではたとえ少数にすぎなくても、国会の議席では圧倒的多数を占めることが可能な制度で、むしろ国民の政治的意見のあり方を最大にゆがめる選挙制度だと言ってもよいと思います。各新聞社などの推計でも、30%台の得票で6ないし7割の議席を占有するだろうと推計されております。比例代

表を加味する程度のことでこの基本問題は到底是正できるものではありません。

国民の中にあるさまざまな考え方を国民の意思として正確に反映し、それぞれの意見をもとに国会で大いに論戦を行い、国民の新たな判断を求めていくというのが議会制民主主義の基本であったはずであります。小選挙区制のもとで選出された議会では、既に選挙の時点で国民のさまざまな意見が切り捨てられます。国民の政治的意見を正確に反映しない国会で一体何を議論するのでありましょうか。不当にゆがめられた国会の絶対多数のもとで、国会は論戦の場ではなくなり、戦前のような単なる翼賛議会になるのか、悪法を製造する通過儀礼の場になるのか、国会はその本来の役割と機能を大幅に低下させることになります。

選挙制度の問題で言えば、むしろ問題はゆがめられた定数配分、いわゆる1票の不平等是正こそ緊急に行うべき事柄であります。600億やら300億やらさまざまに言われますが、政党への公費助成など、あの金丸さんの蓄財問題一つ見ましても、到底議論に値するようなものではありません。こうした政党への公費助成など論外であります。

なぜ今小選挙区制なのでありましょうか。その理由は、中選挙区制のもとでは自民党の長期政権で、その政権交代ができないからというものでありました。しかし、さきの選挙の結果、中選挙区制のもとでも現実に政権交代が起きてしまいました。この論を現実が打ち破ってしまったのであります。

また、中選挙区制では、自民党同士の争いになると、政策による論議よりもサービス合戦になるため、金のかかる選挙になってしまう。だから小選挙区制だという議論もありました。小選挙区制ならば政策中心の金のかからない選挙になるのでありましょうか。歴史的な事実は全く正反対であります。小選挙区制こそ金のかかる選挙そのものであったというのが歴史の事実であります。日本の選挙制度は、1890年、明治23年の衆議院第1回選挙に始まりますが、これは小選挙区制でありました。買収が横行し、選挙の腐敗を一掃するということで、10年後の1900年、明治33年に大選挙区制に改定をいたします。この制度では少数の政治勢力の進出も可能なため、時の政府は危険思想

の伝播を防ぐという口実で再び小選挙区制に復帰いたします。しかし、選挙費用の濫増は最も著しきものとなり、わずか6年で廃止され、現行の中選挙区制に移行したのが歴史の事実であります。小選挙区制はもともと金がかかり過ぎるために廃止されてきたのであります。

奄美大島など奄美群島は、日本で唯一定数1の小選挙区制で衆議院選挙が過去17回にわたって行われてまいりましたが、選挙犯罪の百貨店と言われるすさまじい腐敗選挙が行われてまいりました。島は真っ二つに割れて、市町村の政治もこの代理戦争に巻き込まれ、親類、兄弟、親子も骨肉相はむ抗争の渦に巻き込まれていってしまったのであります。余りのそのひどさに、名瀬市議会では、これではいけないという共通認識のもとに、全国でただ一つと言われる政治選挙倫理条例を全会一致で制定したほどであります。この奄美の悲劇も、さきの選挙では鹿児島1区に合区され、解消されました。小選挙区制が地域にどんなにひどい悲劇をもたらしたのかの見本がこの鹿児島の奄美群島選挙区でありました。

それでは、なぜ小選挙区制なのであるのでしょうか。細川首相も、また細川政権の立て役者である小沢一郎氏も、その著書の中であけすけに権力の集中、強化の必要性を強調しております。国会に多様な国民の意見が存在することは、この権力の集中、強化には障害だというのであります。小選挙区制でこれらを国会から排除し、憲法を改悪していく強力なリーダーシップをつくり出そうというのであるのでしょうか。これらの主張に私は日本型ファシズムの危惧を感じます。小選挙区制は憲法改悪への道と率直に指摘せざるを得ません。

まさに小選挙区制は日本の議会制民主主義の基本にかかわる重大な問題だと思うのでありますが、市長はどのように考えておりますか、お聞かせをいただきたいと思います。

第2点は、館山市政政治倫理条例の制定についてであります。仙台市長、茨城県知事と、相次ぐ首長の政治腐敗が明らかになりました。国の政治だけでなく、地方の政治も金権腐敗にまみれていると国民の厳しい批判が寄せられております。こうしたときだからこそ自ら襟を正し、わけても政治腐敗防止

の手だてを明らかにすることが強く求められているのではないのでしょうか。具体的な政治腐敗事件があろうが、あるいはなかろうが、館山市もこの手だてを市民の前に明らかにすることは絶対に必要なことかと思うのであります。

国会議員等の資産公開等に関する法律の制定がされましたが、これに基づき、全国国会議員の資産が公開されたことはまだ記憶に新しいところであります。同時に、この法律では地方政治の面でも、都道府県知事や都道府県議会議員、市町村長の資産公開のための条例制定を1995年12月までにつくるよう義務づけられました。

法律でこの義務づけがされる前に、既に地方では、政治腐敗が問題となった市町村等で、こうしたことを二度と起こさせないというかたい決意のもとに、首長等の資産公開条例が制定されております。福岡県芦屋町や大野城市には政治倫理条例がありますが、この条例では、資産公開の対象は市長や町長ばかりではなく、助役、収入役、教育長、議員、さらにその配偶者や同居の親族も対象となっております。また、資産報告書の審査をする政治倫理委員会の設置や、報告内容に疑義がある場合の住民による調査請求権もはっきりとさせております。芦屋町の条例を読みますと、町発注の請負契約と物品納入契約に関する特定業者の推薦、紹介の禁止、あるいは公正な人事を図るために、町職員の採用についての推薦、紹介の禁止がうたわれております。これらの条例を読みますと、市政や町政から政治腐敗を防止していこうとの強い決意を読み取ることができます。

そこでお尋ねをいたします。これら市や町の条例を参考にしながらも、この館山市の政治腐敗防止のために、市長はもちろんであります、私たち議員も含めて政治腐敗防止及び政治倫理確立のための条例をつくる必要があると思うのでありますが、市長さんはどのように考えておられますでしょうか、お伺いをいたします。

第3点目は、再びコミュニティセンター入り口付近の交通安全対策についてお尋ねをいたします。この問題については、3月市議会の私の質問に対して市長は、将来的には館山－白浜線バイパスの供用に合わせまして出入り口の改良を行うことにより安全が確保されると考えます。当面の間における対

策としては、建設省、館山土木事務所及び千葉県公安委員会との協議の結果、信号機の改良による処理方法を公安委員会により実施することになっておりますとの御説明であります。抜本的な対策はまだ時間がかかることといたしましても、当面の対策として実施するとした信号機の改良はその後どのようなになっているのでありましょうか。既に半年が過ぎようとしております。しかも、この間この場所で次々と事故が頻発をいたしました。幸いにも大事故には至らなかったものの、もはやこの問題は猶予できる状況ではなく、その解決を一刻も早くすることを強く求めるものであります。市はこの問題についてどのように認識をしているのでありましょうか、市長の御見解をお聞かせいただきたいと思います。

第4点目は、北海道南西沖地震から学ぶ地震、津波等の防災対策についてお尋ねをいたします。7月12日の北海道南西沖地震の記憶はまだ生々しいものがあります。特に、青苗地区では津波に襲われ、火災が発生、津波と火災の複合災害でまちはすっかり焼けただれ、何も残っていないという惨状は全く驚くべき状況であります。津波に襲われた青苗地区では間もなく火災が発生、延々10時間以上にわたって延焼いたしました。焼け跡には元栓部が吹き飛ばされたプロパンガスボンベや空の屋外用灯油タンクなどが散乱していました。現場にいち早く駆けつけた職員は、爆発が何度もあり、火炎放射器のような火柱も上がり、映画の戦場場面を見ているようだった。火の手はみるみる広がり、手のつけられない状態になったと言っております。青苗地区では、津波では持ちこたえた家屋はかなりありましたが、この火災でなめ尽くされてしまったのであります。

なぜ津波によって大火災が発生したのか。津波によって火災が発生するということはこれまで余り想定されてこなかった問題ではないかと思うのであります。想定される東海地震でも、神奈川県西部地震でも、南関東地震でも、津波そのものの危険は想定されていますが、津波による火災のことは全く想定されておりません。奥尻島では、多くの家庭が抱えていた大量の暖房用の灯油や漁船用の軽油等が流出して大火災になったと言われます。1月の釧路地震では、屋外石油タンクの転倒、油流出が相次ぎ、その防止対策が迫られ

ていたやさきの今回の被害でありました。私たちの生活は、まさに大量の油脂類等の引火物に囲まれて生活をしております。これらに火がつくことを考えれば、大変なことだと思うのであります。北海道南西沖地震は津波によって火災が引き起こされ得るということを実例で示しました。海岸線の近くでは、津波に襲われることを想定し、屋外タンクの油類の流出防止対策が必要ではないでしょうか。また、一般家庭のプロパンガスや灯油などの流出防止対策も検討しなければならないと思うのであります。これは南西沖地震から学ぶべき点ではないかと思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか。

第5点、夏休み期間中の市立図書館の時間延長についてお尋ねをいたします。従来より図書館の開館時間については朝9時から夕方の5時までということで、一般勤労者の利用という面では利用しにくい時間帯となっており、不便でありました。勤労者の利用拡大を進めるには、図書館の開館時間を延長することが求められます。図書館はもっと勤労市民に開かれているべきだと思うのであります。7月、8月の夏休み期間中は、高校生を中心とした学生の利用という特別の需要も生じ、図書館は大変な混雑であります。図書館の利用率が高まることは歓迎すべきことでありますが、この際夏休み期間中の図書館の開館時間を延長し、勤労市民の利用率を高めることを検討してはどうかと思うのでありますが、いかがでありますでしょうか。

第6点、在宅老人福祉の充実についてお尋ねをいたします。住宅改良助成及び住宅改良（リフォーム）ヘルパー制度についてお尋ねをいたします。厚生省老人保健福祉局は、6月17日付で住宅改良（リフォーム）ヘルパーの運営についての通知をしました。これは、老人ホームヘルプサービス事業に今年度から住宅改良に関する相談、助言をする住宅改良ヘルパー制度が導入されたことに伴うものであります。

高齢者等の住宅改良については在宅老人福祉の条件を整えるもので、江戸川区の健やか住まい助成制度などからも、多くの財源を必要とせずに具体的な効果を上げられる分野の施策で高齢者に大変喜ばれております。去る11日、NHKテレビの番組でこうした施策の実例が放映されておりましたが、大

変参考になるものでありました。住宅改良のポイントはトイレとふろ場と玄関だと言われます。手すりをつけたり段差をなくしたりといったことが高齢者の自立にどんなにか大きな影響を及ぼしていたのか、具体的に示してありました。例えば、手すりをつけるというようなことで一人でトイレに行けるようになり、寝たきりを克服できたというのであります。

問題は、障害もそれぞれ皆違いますから、その人に応じた形で改良ができなくてはなりません。すべてがその人の状況に合わせて改良が行われます。個々の事例に柔軟に対応できる技術や能力を育てていかななくてはなりません。住宅改良ヘルパーの育成が決定的だと思うのであります。住宅改良についての研究会など、そうした技術を持つ大工さんや工務店も育てていかなければなりません。現在の状況では、それ自体が事業として成り立つには、解決していかなければならない問題点も多くあると思います。市として積極的にそうしたことを克服していくことを援助することが求められると思うのであります。市長はこの住宅改良ヘルパーの設置についていかがお考えでありますか、お聞かせをいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をいたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、小選挙区並立制についての御質問でございますが、これは、現在選挙制度につきまして、政治改革の一環として、国政レベル、特に明日からの国会において十分論議されていくものでございます。その状況を見守ってまいりたいと考えます。

大きな第2、館山市政治倫理条例の制定についての御質問でございますが、御承知のとおり、政治倫理の確立のための国会議員の資産等の公開等に関する法律第7条の規定によりまして、平成7年12月31日までに市長の資産等の公開に関する条例を制定することになっております。これから、平成5年7月30日付自治事務次官通達を踏まえ、法律の範囲内で検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、コミュニティセンター入り口付近の交通安全対策についての御質問でございますが、この交差点の対策といたしまして、信号機の改良により対応する予定でございましたが、国道128号における交通量及び交差点の形状等からその対応が困難となりました。このため、再度千葉国道工事事務所、館山土木事務所及び千葉県公安委員会で協議の結果、国道410号バイパスの事業を早期に進め、現在の交差点形状を改善することになっております。

次に、大きな第4、北海道南西沖地震から学ぶ地震、津波等の問題でございます。この地震によります北海道の被災を受けました方々にお見舞い申し上げます。

さて、奥尻島青苗地区では、地震によります火災原因については現在調査中であるということでございます。地震によります火災の発生防止については、日ごろより火の始末が重要であるとの認識を持っておくことが最良の方法でございまして、このため、防災訓練等を通じ、初期消火訓練等の指導を行っているところでございます。館山市におきましても31.5キロメートルの海岸線を抱えておりますので、奥尻島の災害を教訓といたしまして、今後も引き続き関係機関と連絡を密にしまして、さらに防災意識の高揚を図ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第5、夏休み期間中の市立図書館の時間延長をしてはどうかとの御質問でございますが、土曜日、日曜日も平常どおり午前9時から午後5時まで開館し、市民を初め多くの方々に利用されているところでございます。この開館時間の延長につきましては、同様の御意見も寄せられておりますので、これから検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第6、在宅老人福祉の充実についての御質問でございますが、住宅改良助成及び住宅改良（リフォーム）ヘルパー制度につきましては、本日さきに鈴木順子議員に御答弁申し上げたとおりでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 選挙制度の問題ですが、これは確かに市長さんが

言われるとおり、あしたから国会で大いに論議される問題だろうと思うんです。それはそのとおりなんです。でも、国の問題だといってとぼけてもいられないんです。具体的に考えてみると、大変な問題です。これは決して、市政との関係でも、国会の問題だということと言ってられない問題が含まれております。

250という線で出されていますから、この千葉県3区——ざっくりばらんな話でいって、千葉県3区は2人配当というところかと思うんですが、君津、安房で1人、こうすることで選挙が小選挙区制だと想定できるかな。これは決まっていないからわかりません。どういう選挙になるのかというと、そういう選挙になるだろうということなんです。勝ち組につくか、負け組につくか、市町村長はそれによってどうなるか、そういう問題なんです。奄美群島で何が起きたのかというのはそういうことなんです。ここでの政治判断を間違えたら市長をやっていけなくなる、町長をやっていけなくなる、これが市町村政を激しい選挙戦に巻き込んでいく物すごい腐敗選挙が起きていった一番の問題なんです。やはり国会議員となりますと、いろいろなその地域における公共工事に重大なやっぱり影響力を持ちますから、だから奄美群島区ではこんな選挙はもう嫌だ、鹿児島1区に合区してくれ、名瀬市議会では繰り返しそういう決議をしている。それでそうなったわけです。住民の多くの声になっていったわけです。ですから、この小選挙区制というのは、地方政治という——国会の政治の問題だけじゃなくて、それを契機に地方政治がどうなるのかという問題を含んでいるんだ、こう思うんです。

市長さん、その辺についてどういうふうにお考えになりますか。そういうことはないというふうに考えられますか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） この選挙制度の問題といたしますのは、国民の意思を率直に国政に反映するための選挙制度でございまして、選挙制度には、世界の歴史をひもときますと、これが最善であるという選挙制度はないわけでございます。そのよりよい選挙制度を求めて各国とも努力して、大いに討議を交わし、そしてよりよい道を模索しているわけでございます。

今回のこの小選挙区制度につきましては、日本の歴史を見ますと、前の内閣のときに提案され、これが通らずで、今回新たに政治改革の一環として提案されているわけでございます。そして、その根幹が小選挙区制にあるやに報道機関を通じて報道されていることは聞いております。その小選挙区制によりまず先ほどの御意見の死票をいかに救済して国民の意思を率直に反映させるかというのが比例代表並立制だと思うんです。そこのところで与党の中の意見統一も大変でございますし、また与野党を通しての意見統一も大変でございますが、そこのところが明日からの国会に出てくるわけでございます。市長というよりも、国民の一人として、この選挙制度の改革には非常に慎重な、またこれからの日本がどうなっていくだろうか。今日も出ましたけれども、議会制民主主義の、しかも衆議院優位制を持つ日本の議員内閣制でございますから、その命運がかかっているわけでございまして、今後の推移を見守っていきたい、こう思うわけでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 今指摘したような小選挙区制には重大な問題点があるということも地方政治という立場からひとつ踏まえて、よく今の国の動向等を見ていかなきゃならんと思います。

次の第2点の政治倫理条例の問題に入ります。端的に茨城県知事のことをどう思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） あの知事さんが館山市を見習えばああいうことはなかった、こういうふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） なかなかいい答弁ですね。そこで、私は館山市にはそういうことはないだろう、またそういうことで思うんでありますけれども、しかし、だからこそ自ら襟を正すということが大変大事だ。

先ほどの御答弁ですと、平成7年度の12月までに法律で義務づけられて、市長さんは自分の資産、財産はこれだけですと市民の前に明らかにするという条例をつくるのが義務づけられたわけです。市長さんは来年が任期だ

ったかと思うんですけれども、この任期中にやっても別に問題ないわけで、この7月に出された国の事務次官通達では早期につくりなさいというふうに強調されているわけですから、いつごろまでにつくりですか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 貴重な御意見として拝聴しておきまして、この事務次官通達、これを押さえて、そのとおりにやっていきたいと考えておりますが、きょうは貴重な御意見として拝聴しておきます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） それでは貴重な意見として、ぜひ腹の中に入れてほしい問題は、来年の市長さんの任期との関係もありますから、任期までにはちゃんとつくって、新しい任期の中では——だれが市長になるかわかりませんから、こればかりは選挙をやってみなきゃわかりませんから、新しい市長さんはきちんとこの新しい倫理条例のもとで市民の中に資産を公開して行う市長さんになるということにしていきたいと思います。

それで、先ほど気になる御答弁があったのは、法律の範囲内ということ、これは何を意味しているのかなということなんです、条例で決めることは——とにかく法律ではこれだけは決めなさいということで、これは最低限度のことが明示されているわけです。これは決めなきゃいけないんです。だけれども、条例で決めることは、それを上回る厳しい内容にすることについては一向に差し支えないんです。法律の範囲内というのはちょっとどういう意味かなと勘繰っちゃう話なもので、法律で決めた以上の厳しい内容を館山市としては考えていく、こういうことはいかなものですか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） これも御意見を承っておきますけれども、法律では地方自治体における首長は公開すべきである、この線はきちっと守ってまいりたいと思います。それを超えますものにつきましては、また皆様方の御意見を十分に拝聴しながら考えていきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そこで市長さんにお尋ねしたいんですけれども、

これまでの資産公開の歴史とか、そういったものも考えてみますと、今度法律では都道府県知事、市町村長、都道府県会議員、政令市の議員、これが対象になるんです。普通の市町村会議員については対象から外れているんです。これはどういう意味だと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） この法律につきましては、国会議員からまず範を垂らして、さらにその次には長、あるいは都道府県議会、指定都市の議会ということでございますので、それぞれ上からやっているのかな、そういうような感じを持っております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 上からやっていくといったって、全部やらなきゃいけないということになっていて、外れているんです。やらなくていいとなっているんです、法律上は、市町村会議員は。だけれども、本当にやらなくていいのかという問題なんです。その辺はどういう認識を持っておられるか。法律上は義務づけがないんです。その辺をどういうふうに考えておられるのか。じゃあ、今の例でいきますと、範を垂れるんだから、範を垂れる必要があるのは市長どまりで、議員、あるいは助役さんなり収入役さんなり、特別職の方は範を垂れる必要はないんだ、こういう認識ですか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 基本的には議員につきましては議員立法であるべきだというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 私自身は当然議会も含めてきちんとやはりやるべきだ。しかし、市長さんからなかなか言いづらいですよ。議員は議員としての独立の機関ですから、上、下の関係じゃありませんから、だからなかなか言いづらいということはあろうかと思います。

助役さんとか収入役さんとか、特別職の方、これはどういうふうになるのかなと思うんですけれども、助役さん、どうですか。というのは、私は政治家だと思っているんです。助役も収入役も政治家だと思っています。単なる

職員ではない。したがって、これはいろんな利権とか誘惑は常にあるんです。私ら議員だってあるんですから、もちろんあるでしょう。いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 今の御意見の中の後半の部分、少なくとも館山市政に関しましては現在まで、これからも実に公明正大に、しかも公平にしておりますので、この点だけはきちっと御理解賜りたい。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） よく理解しております。だから聞くんです。だから、この際その辺をきちんと市民の前に明らかにするためには、やはりやましいことはないんだから、堂々と資産公開に応じていくということについてお考えにならないのかどうか。実際私らが調べた中ではいろいろあります。それぞれの自治体によって違います。いろんな条例があります。しかし、助役さんとか、そうしたものも含めてやっているところもありますし、先ほど私が壇上で話しましたがけれども、配偶者、同居の親族、こういうところも含めて資産公開の対象にしているというふうな、こういうところはやっぱりそれなりの不祥事件が起きたりとか、そういう実際の経験を踏まえた中でそういうことを行っているわけなんですけれども、そこまでやるのはどうかという議論はあるにしても、少なくともその辺は考えなきゃいけないんじゃないかなというふうに思うんです。検討される余地はありますか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） ただいまの御意見は神田議員さんの御意見として私は承っておくという段階にさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 条例上たくさん問題があるんですけれども、報告、公開して自分の資産はこうですよ、任期の中で資産が異常にふえたりしたらこれは問題だということになるわけなんですけれども、その報告の内容がでたらめだったらどうにもしようがないんです。実際にそこらはずっと問題になるわけです。ですから、報告内容が正しいものであるかどうかということでの、第三者機関による審査、これがどこでも設けられる。これは議論のポ

イントになるんです。そういうような審査機関については法律上義務づけられていないんです。これはやっぱり必要じゃないか。それから、疑義が生じた場合——よく新聞報道なんかに出るわけです。そういう場合に——これはあくまでも疑いですが、あるいは住民がたまたま何かの事情でいろんな情報を得たという場合で、怪しいぞ、こういう場合に住民になるほどという事で調査をする、そのための調査の請求権、これも法律上義務づけられていないんです。この辺がやっぱり法律の上では問題があるわけで、この点についても貴重な意見として腹に入れていただきたいと思いますと思うんですが、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 私が資産公開した場合には、皆さんに疑われるような、また審査をしなけりゃいけないような、そういう膨大なものじゃございませんので、御安心していただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 庄司 厚個人のことを言っているわけじゃなくて、館山の市長のことですから、未来永劫に市長をやるわけじゃありませんから、条例というのはそういうものですから、その辺を混同しないでいただきたいと思うんです。よくその辺を踏まえていただきたい。

それから、次に移ります。コミュニティセンター入り口付近の交通安全対策でありますけれども、午前中の論議の中で議会無視じゃないかというような話がありました。私は必ずしもその意見に同調するものじゃありませんけれども、この件に関してはちょっと議会無視なんじゃないか。議会で答弁したことを——3月の議会で答弁した内容が変更になりましたというんです。変更になったって、これ質問しなけりゃ変更になったって言わなかったわけですから、結果的に議会は質問をしなればだまされたということになるわけです。こういうことが起きたら、これは議会としては無視された。執行部と議会との間の信頼関係という上でも問題であることだろうと思うんです。そういう点から、この問題については、こういう方針の変更、議会で答弁した内容を変更する場合には、それなりのやはりルールというものがあるんじ

ゃないんですか。いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 3月の議会でございますが、その後やはり —
先ほど市長の答弁で申し上げましたように、関係の道路管理者であります県、
あるいは館山バイパスを所管する千葉国道工事事務所、市あるいは公安委員
会等を踏まえまして協議をしておったわけでございますが、当初はやはり信
号処理でいけるというふうに言っておったんですが、最近の 128号あるいは
館山バイパスの交通量の変化、そういうのがございまして、変則交差点での
信号処理は非常に難しいという状況に変わってきたところでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 方針はいつ変更になったんですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 平成5年の5月に最終協議をしております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 議会答弁したから、もう絶対それでなきゃならぬ
とは言いません。それはもちろん変更ということは状況においてあり得るこ
とだ。しかし、一応議会で答弁した内容についての変更ともなれば、私が質
問して、こういうふうにしますと言っていて、実際に5月で変更になってい
て、6月の議会もあって、その間何の報告もそちらから承らなかったという
ことで、今回私がどうなっているんだということで質問通告をしたら答弁が
あったということで、ちょっとこれはどうしたものかなと思うんです。そう
いう点では、議会での答弁については、やはりその後方針の変更ということ
はあり得ることだと思います。しかし、その場合にはちゃんとそれなりのル
ールというもので、ちゃんと議長を通してこういうふうに変更になったんだ
という話があってよかったんじゃないかなと思うんですが、その辺反省はあ
りませんか。

◎議長（福原 勤君） 助役。

◎助役（小幡清之君） 確かに議会で御答弁申し上げたことが変更になった
という場合には、しかるべき御報告をするのが筋だというように思っており

ます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 状況については、この方針の変更ということについては、それはそれとして理解をいたします。

次の問題であります。地震、津波の問題で、防災のいろんなものを読みましても、津波によって火災が起きるということは何も想定されていないというふうに私自身理解をしたんですけれども、どうですか、その辺。地震によって火災があるという認識はあるんですけれども、津波を直接の契機にして大規模な火災という問題はこれまでもなかったかと思うんですが、そういう想定というのは防災対策の中でも何ら考慮されていないというふうに考えなきゃならぬのじゃないかと思うんですけれども、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 今回の北海道南西沖地震では、津波によって火災が起きたんじゃないかという話が出ておりますけれども、これはいろんな証言が実は出ているわけです。でも、これは消防庁の調査団の調査によりますと、火元は2カ所であるんだけど、はっきりその火災の原因はわからない。先ほど市長が答弁したとおりでございますけれども、そういったことです。ですから、津波によって火災というのはちょっと関連づけがはっきりしておりません。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 1月の釧路地震では、屋外石油タンクが転倒するというのが結構起きたんです。そのことで、これが大火災になりかねない要素を持っているということで、1月の寒い時期で、釧路ですから、相当一般家庭の中でも灯油とか、そういう油類ですね、タンクにかなり持っていたんじゃないかなと思うんです。この北海道南西沖地震の場合でも、かなりの油がこうした大火災の原因——何が火元かという問題はあるにしても、それが爆発したり炎上したということは紛れもない事実だったと思うんです。そういう点からすると、屋外タンクの油の流出、あるいは一般家庭のプロパンと

か、あるいは油の流出防止という問題は、非常に地震対策、津波対策の上でも重要なキーポイントではないかなというふうにこの青苗のことから言えるんじゃないかと思うんですけれども、その辺はいかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 確かに今回の北海道南西沖地震では、火災の延焼といたしますか、そういった大もとは油とかガソリン、そういったことではないかということが言われておりますけれども、この危険物の取り扱いといたしますか、保管といたしますか、そういった関係につきましては、これは危険物の規制に関する政令によって定められておりまして、一定数量、相当数量といたしますか、一定数量以上は、これはしっかりした貯蔵場所に貯蔵するということで、したがって今の規制の中では構造上地震には耐えられるという見解がございます。

それから、家庭での保管の関係でございますけれども、これは数量で言いますと、灯油では 500リットル以上から 1,000リットル未満、こういった保管につきましては、安房郡市の火災予防条例によって届け出の義務づけをしております。そういったことで、届け出の際の指導をしているというのが実態でございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 確かにタンク等の耐震構造とか耐震装置とかというものが義務づけられたりしているんですけれども、震動、地震の揺れに対して元栓が閉まるとか、そういうことはそれなりにされているかと思うんですけれども、しかし青苗の場合では津波ということで、それで油が流出してしまったんだとすると、その津波に対して流出防止というものはちゃんとなっているんだろうかという問題があらうかと思うんです。その辺についてはどうなのでしょう。それがもしないんだとするならば、これは改めて考えなければならない、検討しなければならない問題なのかどうか、その辺いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） この関係につきましては、今回の一連の火災、地震、そういった教訓を踏まえて、恐らく上部団体であります国、県、そういった機関から指導があると思います。そういった指導を受けてこれから対応してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 1点ちょっと……。

鴨川に津波警報が出された際、避難方法ということで、高いところへ逃げなさいよということで、高いところということと同時に、近くにビルがあったらそこへ逃げなさいよという内容で緊急避難の指示を出しているんですけども、館山市はそういう考え方はとっていなかったと思うんですが、高いビルに逃げるとするのは、火災のことを考えると、ちょっと逆に心配だなという気もするんですけども、市としてはその辺どういうふうに受けとめられておりますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） ただいま避難場所につきまして鴨川の例でお話がありましたけれども、館山市の津波に対する防災体制、これは元禄地震、あるいは大正12年の関東大震災という教訓を踏まえまして、当時の記録、津波状況記録、そういったものを踏まえて体制をとっているわけです。内湾につきましては津波高さ5メートル、それから外房といいますか、洲崎から富崎にかけては10メートルという想定で避難体制をとっているわけです。ただ、鴨川の例ということなんですけれども、鴨川はしたがいまして外房になりますから、やはり館山市の市街地に当たります内湾の5メートルの倍だということからそういう体制をとっているんじゃないかというように思います。したがいまして、館山市では現体制で何とか大丈夫だという考えを持っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 夏休み期間中の図書館の時間延長は検討するそう

ですから、ぜひ検討していただきたいと思います。

最後の住宅改良ヘルパーの問題でありますけれども、このヘルパーさんの問題というのは、要するにそれだけの技術力というか、能力といいますか、そういったものをどこにどうやって蓄積していったらいいのかという問題かと思うんです。また、それだけの技術を持った人をどうやって育てていくかという問題かと思うんです。そういう点では、市内の大工さん、工務店とか、そういうところともよく相談をしたりとか、いろいろと技術的な開発というものを非常にしていかなきゃならないと思うんですけれども、そういうことを含めて研究をしていくというのがさっき鈴木議員に対する答弁だったと思うんですけれども、そういう研究会を——行政も入り、また民間のそうした方も、工務店などの方にも協力をいただいて研究会をつくっていこうということで考えていいのか、市の中だけで研究会をつくっていくということなのか、その辺はどうなんですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） そういったことも含めまして今後研究をしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） この改良問題というのはなかなか現物がなくてよくわかりづらいという面がありまして、介護機器の問題にしてもそうなんですけれども、なかなか住民の中に周知していないという問題がありますので、改良の実例とか、あるいは介護機器なんかもわかりやすく住民に展示をするとか、あるいはいつでも見れるようなパンフレットを備えて、具体的なイメージが——こういう介護機器があるんだとか、こういうふうに改良すればここはこういうふうによくなるんだとか、住民によくわかりやすいような展示といいますか、そういう工夫が必要だし、そういうことが日常的にどんどん新しい内容が豊かになっていくというようなことを工夫して、住民にいつでも返していくという視点をぜひ据えていただきたいなと思うんですけれども、その辺いかがお考えですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 従来も広報等、いろいろ機会あるごとに周知の徹底を図ってきたわけでございますけれども、福祉充実という、こういった時代でございますので、今後さらにこういった制度があるんだよときめ細かい周知徹底をこれから図ってまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午後2時54分

◎議長（福原 勤君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

なお、明17日から19日まで議案調査のため休会、次会は9月20日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議といたします。

この際申し上げます。一般議案及び補正予算に対する質疑通告の締め切りは17日正午、平成4年度各会計決算に対する質疑通告の締め切りは20日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問

